奈義町アートの森整備工事（第一期）

実施設計図（構造）

図面番号　図面名称

S001	構造設計標準仕様	
S002	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（1）	
S003	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（2）	
S004	木質構造標準仕様書	
S005	木造軸組み接合部標準図	
S006	基礎伏図	1/150
S007	1階床伏図	1/150
S008	2階床伏図（1）	1/150
S009	2階床伏図（2）・土台伏図	1/150
S010	小屋伏図（1）	1/75
S011	小屋伏図（2）	1/75
S012	屋根伏図	1/75
S013	Y2軸組図	1/75
S014	Y8軸組図	1/75
S015	X4軸組図	1/75
S016	X12軸組図	1/75
S017	RY1軸組図	1/75
S018	RX1軸組図	1/75
S019	基礎リスト	1/30
S020	部材リスト（1）	1/30
S021	部材リスト（2）	1/30

SB01	基礎伏図	1/50
SB02	土台伏図	1/50
SB03	2階伏図	1/50
SB04	小屋伏図	1/50
SB05	屋根伏図	1/50
SB06	軸組図	1/50
SB07	軸組図（2）	1/50
SB08	部材リスト	1/30

SC01	基礎,土台伏図	1/50
SC02	2階床,屋根伏図	1/50
SC03	軸組図（1）	1/50
SC04	軸組図（2）	1/50
SC05	部材リスト	1/30

特記	SUO・Tetor共同企業体 一級建築士 大臣登録 第372122号 周防貴之	工事名称 奈義町アートの森整備工事（第一期）	図面の名称 図面リスト	縮尺 N/S	日付 令和 8年 11月6日	No. S00

構造設計標準仕様

1. 建築物の構造内容

(1)工事名称 アートの森整備工事 A 棟
建築場所 岡山県勝田郡奈義町豊沢 54 番他
(2)工事種別 ■新築 □増築 □増改築 □改築
(3)構造種別
■木造(W) □補強コンクリートブロック造(CB) □鉄骨造(S)
■鉄筋コンクリート造(RC) □壁式鉄筋コンクリート造(WRC)
□鉄骨鉄筋コンクリート造(SRC)
□壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造(WPRC)
□プレキャスト鉄筋コンクリート造(PRC)
(4)階 数
地下 -階 地上 2階 塔屋 -階
(5)主要用途
(6)屋上付属物
□広告塔 □高架水槽 ton
□煙 突 □キュービクル ton
(7)増築計画 □有( )■無
(8)付帯工事 □門塀 □擁壁
(9)特別な荷重
□エレベータ ( )□リフト ton
□ホイスト ton □倉庫積載床用 kg／m2 □受水槽 ton
(10)その他

2. 使用構造材料

(1)コンクリート

適用箇所	種類	設計基準強度Fc= N/mm2	スランプ cm	備 考
捨コンクリート	普通	13.5, 15.0, (18.0)	18	
基礎(＊)	普通	18.0、21.0、(24.0)、27.0	15	
土間コンクリート	普通	18.0、21.0、(24.0)、27.0	18	

(＊)印の主要構造部については、
品質管理強度Fq=max(Fc, Fd)
調合管理強度Fm=Fq+$_{28}S_{91}$
耐久設計基準強度Fd=24、
$_{28}S_{91}$：構造体強度補正値(気温補正値)
・0℃以上5℃未満：6
・5℃以上(暑中期間を除く)：3
・平均気温平均値25℃以上：6

(2)コンクリートブロック(CB)
□A種 □B種 □C種 厚□100, □120, □150, □190

(3)鉄筋

	種類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋	■SD295A	D16以下		■重ね継手 D19以下 □ガス圧接継手 □特殊継手 ( )
	□SD295B			
	■SD345	D19以上		
	□			
丸鋼	□SR235			
溶接金鋼	□			

(4)鉄骨

	種類	使用箇所	現場溶接	備考
鋼材	■SS400 □SM400A,B	階段	□有 ■無	
	□STKR400 ■STK400	階段柱	□有 ■無	

(5)ボルト
□高力ボルト □普通、F10T
□特殊、S10T認定品(□M16、□M20、□M22)
■中ボルトφ＝ 12,16 高力ボルトすべり係数試験□要 □否
■アンカーボルト M12 M16
□スタッドボルト

(6) 屋根、床、壁 使用箇所
□ALC版
□折版 型式 H＝ 厚
□デッキプレート 型式
□キーストンプレート 型式
□特殊デッキプレート

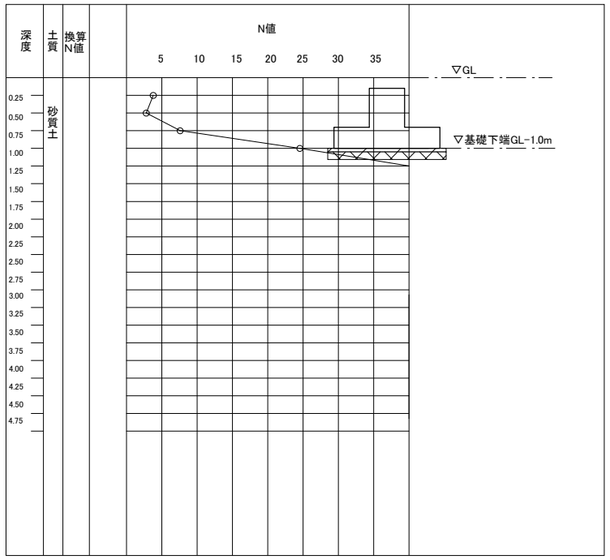
3. 地盤

(1)地盤調査資料
■有(■敷地内□近隣)□スウェーデン式サウンディング試験□平板載荷試験
□水平地盤反力係数の測定□ボーリング調査□標準貫入試験□土質試験
■スクリューウエイト貫入試験□無(調査予定 □有 □無)

(2)地盤調査計画
□ボーリング調査 □静的貫入試験 □標準貫入試験 □スクリューウエイト貫入試験
□水平地盤反力係数 □土質試験 □物理調査 □平板載荷試験 ■スウェーデン式サウンディング試験

(3)地盤調査および試験杭の結果により、杭長、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある。

(4)標準貫入試験



4. 地業工事

(1)直接基礎
■ベタ基礎 □布基礎 ■独立基礎 試験堀 □有 ■無 支持層
載荷試験 □有 ■無 長期設計地耐力120kN/m2

(2)杭基礎

杭種	材料	施工法	備 考
□RC □PC □PHC □H鋼 □鋼管 □摩擦杭	PC(□A種□B種□C種) PHC(□A種□B種□C種) 鋼材 □STK400 □STK490	□打ち込み □埋め込み(セメントミルク工法) □埋め込み(中堀り先端拡大根固め工法) □埋め込み(エコロックパイル工法)	支持層GL m 大臣認定第 号 年 月 日
□場所打ち コンクリート杭	コンクリートFc =240 セメント量 330 kg/m2 鉄筋 主筋 SD 345 HOOP SD 295A	□オールケーシング □拡底杭 □リバースサー キュレーション □アースドリル □ミニアース □BH 深礎[□手堀 □機械堀	拡底杭 日本建築センター 認定第 号 年 月 日

杭仕様 □施工計画書承認 □杭施工結果報告書
試験杭 (□有 □無) (□打ち込み □載荷)

杭径(mm)	設計支持力(kN)	杭の先端の深さ(m)	本数	特記事項

5. 鉄筋コンクリート工事

(1)コンクリート
■ コンクリートはJIS認定工場の製品とし、施工に関してはJASS5(2015)による。
■ 耐久設計基準強度Fd □短期 ■標準 □長期 □超長期
■ セメントはJIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。
■ 調合計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
■ 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は 調合、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
■ フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で(財)国土開発技術研究センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真(カラー)を保管し承認を得る。測定結果の回数は、通常の場合、一日一回以上とし、一回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて三回行い、その平均値を試験値をする。
■ 構造体コンクリート現場の圧縮強度試験供試体(JASS5T-603)は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み工区ごとに、打ち込み日ごとにする。また、打ち込み量が150m3を超える場合は150m3ごとまたは、その端数ごとに一回を基準とする。一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた三台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は特別指示のなき場合は、一回当り六本以上とし、そのうち四週用に三本を用意する。
■ ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ちコンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、ポンプ圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打ち継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は150分、25℃以上の場合は120分とする。

(2)鉄筋
■ 鉄筋はJIS G3112の規格品を基準とする。施工はJASS5(2015)による。
■ 高強度せん断補強筋は、JIS G3137に規定されるD種1号適合品とする。
■ 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」による。(壁式コンクリート造は除く)
■ D19未満は、全て重ね継手とする。継手(D19以上)をガス圧接する場合は日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事規準仕様書」による。
■ ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接ごと(200箇所を超えるときは200箇所ごと)に一回行い、一回の試験は五本以上とする。
外観検査 ■ 有 □無 引張試験 ■ 有 □無 超音波探傷試験 □有 ■無
■ 柱の帯筋(HOOP)の加工方法は、■ H型(タガ型)□W型(溶接型)□S型(スパイラル型)とする。
■ コンクリート及び鉄筋の試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱」第四条の試験機関で行うこと。
試験機関名
代行業者名
代行業者名とは、試験、検査に伴う業務を代行するものをいう。

(3)型枠
■ 材料 合板厚 12m/mを基準とする。
■ 型枠存置期間

種類	せき版				支柱		
部位	基礎、はり、柱、壁		スラブ下、はり下		スラブ下		はり下
存置期間の平均気温	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント 普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種
材令(日) 15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
5℃～15℃	3	5	6	10	12	25	28
5℃未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの圧縮強度	50kg/cm2		設計基準強度の50%		設計基準強度の85%		100%

注)1 片持ちばり、庇、スパン9.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による
注)2 大ばりの支柱の盛りかえは行わない。
注)3 支柱の盛りかえは必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
注)4 盛りかえ後の支柱項部には、厚い受け板、角材または、これに変わるものを置く。
注)5 支柱の盛りかえは、小ばりが終ってから、スラブを行う。
一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。
注)6 上表以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による。
注)7 スラブ型枠及び支柱の存置期間は、上部木構造の建て方完了後までを基本とし、設計者と工事段階に協議の上決定すること。

6. 鉄骨工事

(1)鉄骨工事は指示のない限り下記による。
■ 日本建築学会「JASS6」「鉄骨工事技術指針」
■ 鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工指針」

(2)工事監理者の承認を必要とするもの
■製作工場 ■製作要領書 ■工作図 ■施工計画書
■認定または登録工場
(大臣認定 Rグレード又は監理者が同等と承諾した工場, 都登録 ランク)
■材料規格証明書または試験成績書
■鋼材 ■高力ボルト ■特殊ボルト ■スタッドボルト
■社内検査表

(3)工事監理者に検査報告連絡し指示を受けるもの
■現寸検査 ■組立・開先検査 ■製品検査 ■建方検査

(4)接合部の溶接は下記によること
■ 東京アーク溶接工事管理規準 (建築構造設計指針第12章)
■ 鉄骨造建築物の溶接工事に関する指導指針(建築構造設計指針第12章)
■ 日本建築学会「溶接工作規準、同解説I、II、III、IV、V、VI、VII、VIII、IX」

(5)溶接及び接合部を検査し工事監理者に報告すること
■ 溶接部及び接合部の検査報告

検査箇所	検査方法	検査率または検査数 社内	第三者	工事監理者	備考
■突合せ溶接部	超音波探傷試験	100 % 個	30 % 個	30 % 個	
	外観(目視)検査	100 %	100 %	30 %	
	マクロ試験その他	個	個	個	
第三者検査機関名					

注)現場溶接部に関しては原則として第三者による全数検査を行うこと。

■ 高力ボルトは「JIS B1186の高力ボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒皮などを座食外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去したあと、屋外に自然放置して発生した、赤さび状態ですべり係数が0.45以上確保できるものを標準とし目視により検査を行う。
■ 高力ボルトの締め付けに使用する機器はよく調整されたものを使用し、締め付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。また、締め付けは原則として2度締めとする。
■ 締め付け後の検査は、各締め付け工法別に適切な締め付けが行なわれているか検査する。
■ 告示1464号の検査の実施およびただし書きに対しては「突き合せ継手の食い違い 仕口のずれの検査・補強マニュアル」に基づく事

(6)防錆塗装
■ 防錆塗装の範囲は高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めペイントは、JIS K5674、2回塗りを標準とする。

(7)耐火被覆の材料

7. 設備関係

給湯設備は平成24年国土交通省告示第1447号号に適合する方法で取りつける事とする。

■ 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない、設ける場合は設計者の承認を得ること。
■ 設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。
■ 床スラブ内に設備配管等を埋め込む場合はスラブの厚さの1／3以下とし管の間隔を5cm以上とする。

8. その他

■諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
■各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
■必要に応じて記録写真を撮り、保管すること。

提出書類
■工程表
■各施工図(鉄骨図、鉄骨階段、その他必要に応じて)
■鉄骨ミルシート
■超音波試験結果報告書
■コンクリート配合計画書(温度補正表、経路、時間含む)
■基礎躯体図
□一軸圧縮試験結果

特記	構造設計	工事名称	図面の名称	縮尺	日付	No.
	岡田勇佑構造設計事務所 一級建築士 大臣登録 第366064号 岡田勇佑 SUO・Tetor共同企業体 一級建築士 大臣登録 第372122号 周防貴之	奈義町アートの森整備工事(第一期) A棟	構造設計標準仕様		令和8年11月12日	S001

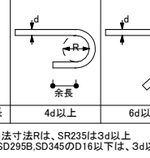
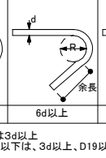
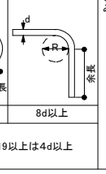
鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)

1. 一般事項

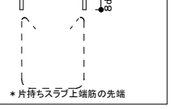
(1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
(2) 記号
d…異形棒鋼の呼び名に用いた数値 丸鋼では径 D…部材の成 R…直径
@…間隔 r…半径 CL…中心線 •o…部材間の内法距離 ho…部材間の内法高さ
ST…あばら筋 HOOP…帯筋 S. HOOP…補強帯筋 φ…直径又は丸鋼

2. 鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°
図			
鉄筋の余長	4d以上	6d以上	8d以上

折曲げ角度90°はスラブ筋、壁筋の末端部またはスラブと同時に打ち込むT型及びL型梁のキャップタイにのみ用いる。



＊片持ちスラブ上端筋の先端

折曲げ内法寸法Rは、SR235は3d以上
SD295A,SD295B,SD345のD16以下は、3d以上、D19以上は4d以上

(2)鉄筋中間部の折曲げの形状　鉄筋の折曲げ角度90° 以下

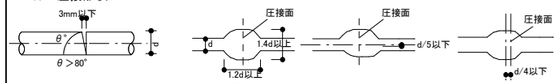
図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内のり寸法(R)
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SR235 SD 295A SD295B SD345	16φ D16以下	3d以上
			19φ D19以上	4d以上
	上記以外の鉄筋	SR235 SD 295A SD295B SD345	19φ D19以上	4d以上
			19φ～25φ D19～D25	6d以上
			26φ～32φ D29～D38	8d以上

(3)鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

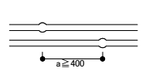
鉄筋の種類	普通コンクリートの設計基準強度の範囲(N／mm²)	定着の長さ 一般 (La)	定着の長さ 下端筋 (La) 小梁	定着の長さ 下端筋 (La) スラブ	特別の定着及び重ね継手の長さ (L1)
SD295A SD295B	18	40dまたは 30dフックつき	20dまたは 10dフックつき	10dかつ 15cm以上	45dまたは 40dフックつき
	21	35dまたは 25dフックつき			40dまたは 30dフックつき
	24,27,30,33,36	30dまたは 20dフックつき			35dまたは 25dフックつき
SD345	21	35dまたは 25dフックつき			45dまたは 30dフックつき
	24,27				40dまたは 30dフックつき
	30,33,36	30dまたは 20dフックつき			35dまたは 25dフックつき

継手
1. 末端のフックは、定着及び重ね継手の長さに含まれない。
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする。
4. D29以上の異形鉄筋は、原則として重ね継手としてはならない。
5. 鉄筋径の差が7mmを超える時は、圧接としてはならない。

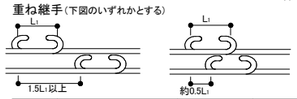
ガス圧接形状



圧接継手



重ね継手(下図のいずれかとする)



(4)かぶり厚さ(単位:mm)

ひび割れ誘発目地部など鉄筋のかぶり、厚さが部分的に減少する箇所についても最小かぶり厚さを確保する



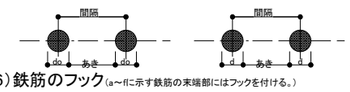
かぶり厚さ

部位			設計かぶり厚さ (mm)	最少かぶり厚さ (mm)
土に接しない部分	屋根スラブ 床スラブ 非耐力壁	屋内	30	30
		屋外	40(1)	30
	柱 梁 耐力壁	屋内	40	30
		屋外	50(2)	40(1)(30)
	擁壁		50(3)	40
土に接する部分	柱、梁、床スラブ、耐力壁		60	50
	基礎、擁壁		70	60(4)

注)(1)耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて30mmをすることができる。
(2)耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。
(3)コンクリートの品質及び施工方法に応じ、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。
(4)軽量コンクリートの場合は、10mm増の値とする。
(5)( )内は仕上げがある場合。改定により標準かぶり厚さは10mm増

(5)鉄筋のあき

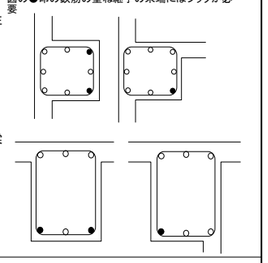
丸鋼では径、異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上粗骨材の最大寸法の1.25倍かつ25以上



(6)鉄筋のフック(a～fに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。)

a. 丸鋼 b. あばら筋 、帯筋 c. 煙突の鉄筋
d. 柱、梁(基礎梁は除く)の出すみ部分の鉄筋(右図参照)
e. 単純梁の下端筋
f. その他、本配筋標準に記載する箇所

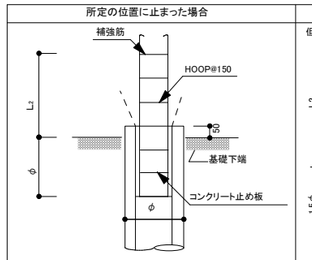
図の●印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要



3. 杭(地震力等の水平力を考慮する場合は、別途検討すること。)

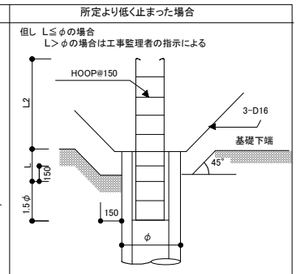
(1)PC杭、又はPHC杭の全てに補強を行う。

所定の位置に止まった場合



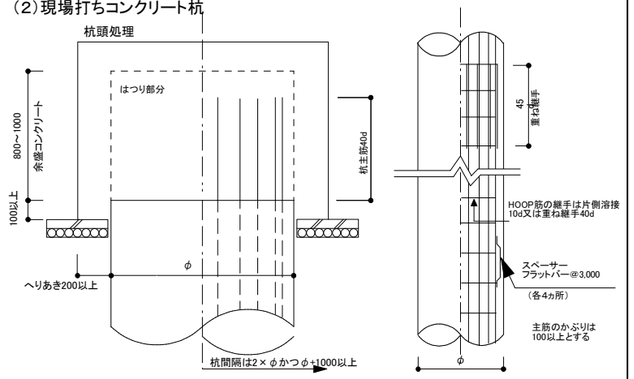
所定より低く止まった場合

但し L≦φの場合
L＞φの場合は工事監理者の指示による



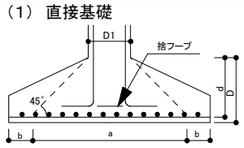
杭径	300φ,350φ	400φ	450φ	500φ	600φ
補強筋	6-D13	8-D13	10-D13	8-D16	10-D16
HOOP	D10-@150				

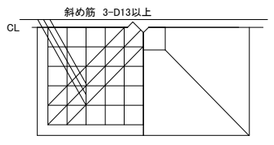
(2)現場打ちコンクリート杭



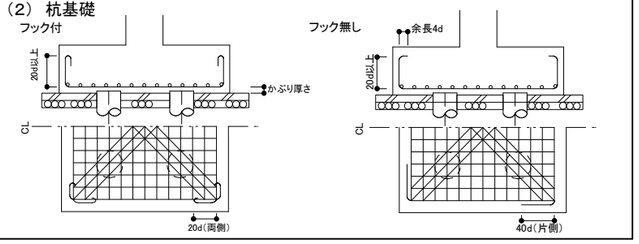
4. 基礎

(1) 直接基礎



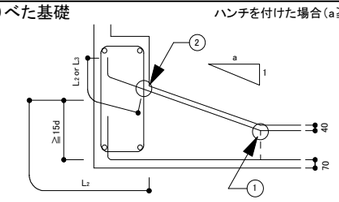


(2) 杭基礎



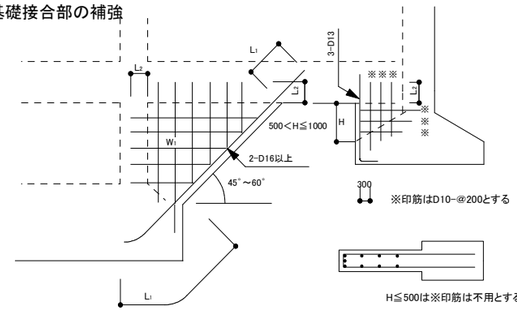
(3)べた基礎

ハンチを付けた場合(a≧3)



1. 耐圧版鉄筋の継手位置は床スラブにならう
但し上筋と下筋を読みかえる
2. ①の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする
3. ②の鉄筋はD13以上
4. 埋戻し土のある場合は40を70とする

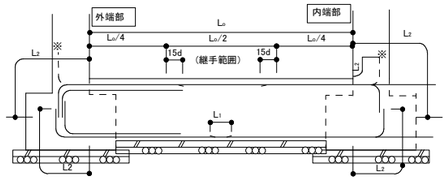
(4)基礎接合部の補強



W1の三角壁厚さは、200以上または地中梁幅とし、
配筋は同厚の壁リストにならう

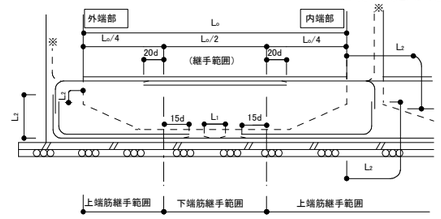
5. 地中梁

(1)独立基礎、杭基礎の場合(定着、継手)



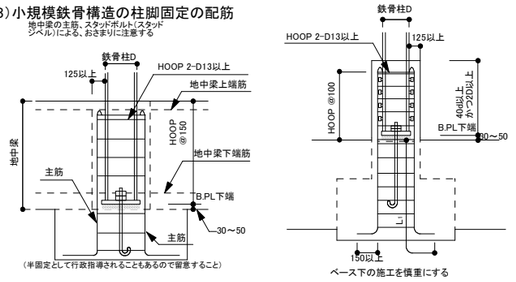
(2)布基礎、べた基礎の場合(定着、継手)

※上端主筋の定着は、やむを得ない場合、上向きとすることができる。

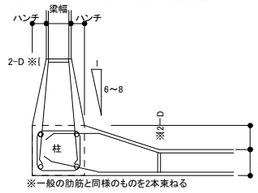


(3)小規模鉄骨構造の柱脚固定の配筋

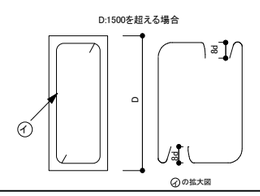
地中梁の主筋、スタッドボルト(スタッドジベル)による、おさまりに注意する



(4)水平ハンチの場合のあばら筋加工要領

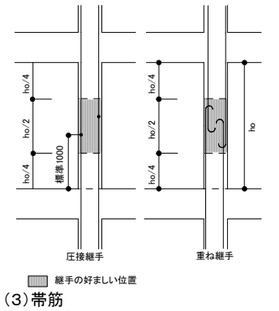


(5)せいの高い梁のあばら筋加工要領図

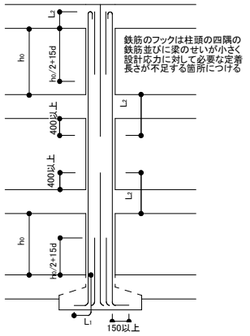


6. 柱

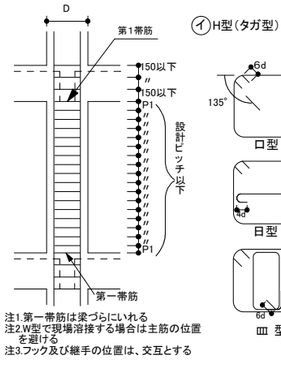
(1)柱主筋の継手



(2)柱主筋の定着

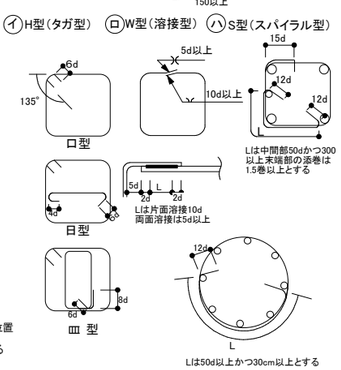


(3)帯筋

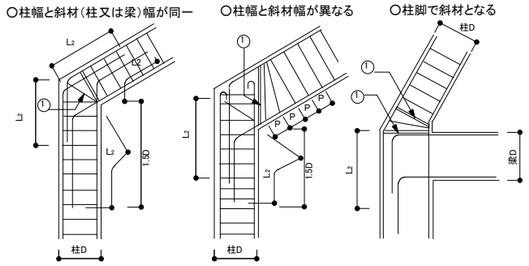


注1.第一帯筋は梁づらにいれる
注2.W型で現場溶接する場合は主筋の位置を避ける
注3.フック及び継手の位置は、交互とする

(イ)H型(タガ型) (ロ)W型(溶接型) (ハ)S型(スパイラル型)

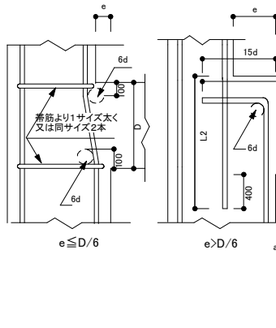


(4)斜め柱、斜め梁

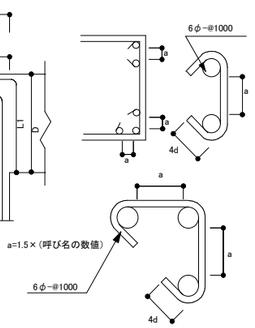


注1. 1.5Dの範囲の柱の帯筋は一段太いものか、又はダブル巻きとし@100以下とする
注2. ①の鉄筋は2-D13かつ、2本の一段太い鉄筋とする

(5)絞り



(6)二段筋の保持



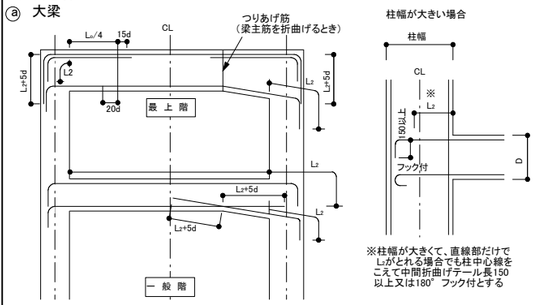
特記	構造設計	工事名称	図面の名称	縮尺	日付	No.
	岡田勇佑構造設計事務所 一級建築士 大臣登録 第366064号 岡田勇佑	SUO・Tetor共同企業体 一級建築士 大臣登録 第372122号 周防貴之	奈義町アートの森整備工事(第一期) A棟	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)		令和8年11月12日	S002

鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)

7. 大梁、小梁、片持ち梁

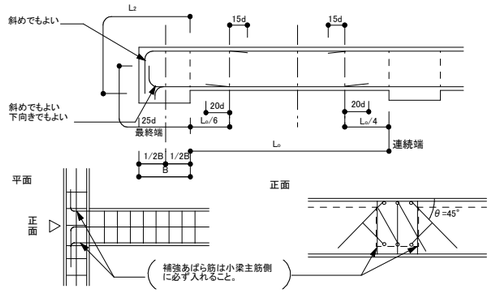
(1)定着

ⓐ 大梁

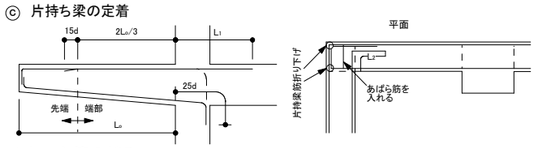


※柱幅が大きくて、直線部だけでLdがとれる場合でも柱中心線をこえて中間折曲げテール長150以上又は180°フック付とする

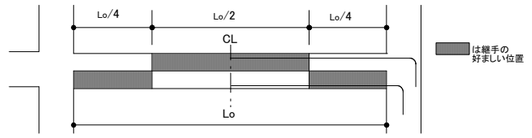
ⓑ 小梁の定着



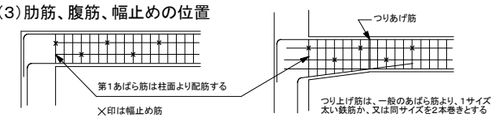
ⓒ 片持ち梁の定着



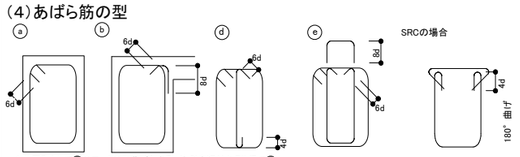
(2)大梁主筋の継手



(3)肋筋、腹筋、幅止めの位置



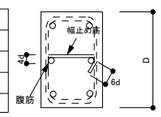
(4)あばら筋の型



(イ)原則として①のフックを先曲げとする。片側床版付(L型)梁で⑥、両側床版付(T型)梁で⑥とすることができる。
(ロ)フックの位置は⑧にあっては交互、⑥にあたってはスラブ側とする。

(5)幅止め筋の本数、加工

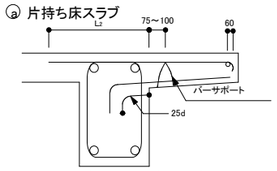
腹筋	D＜600	不要
	600≦D＜900	2-D10(9φ) 1段
	900≦D＜1200	4-D10(9φ) 2段
	1200≦D	D10(9φ) @300以内
幅止め筋	D10(9φ)@1000以内で割り付ける	



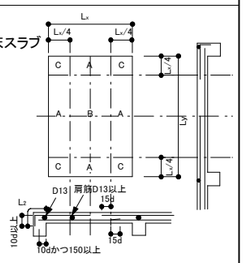
8. 床板

(1)定着及び継手

ⓐ 片持ち床スラブ



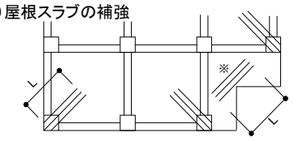
ⓑ 一般床スラブ



継手位置は原則として下表による

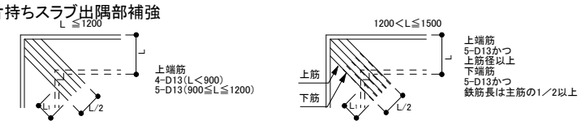
		標準継手位置
上端筋	短辺方向	B
	長辺方向	B
下端筋	短辺、長辺方向	A C

(2)屋根スラブの補強

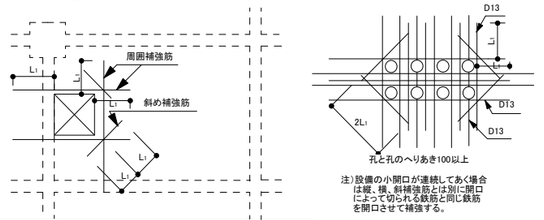


ⓐ補強筋は各3-D13 又はスラブ主筋の同一径でL＝1,500とし、上端筋の下に配筋する
ⓑ※の個所(入隅)は各階補強する

(3)片持ちスラブ出隅部補強



(4)床板開口部の補強(開口の径500程度の場合)

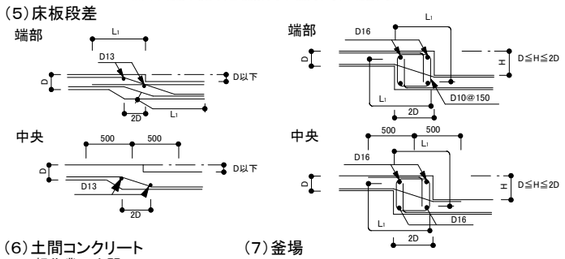


注)設備の小開口が連続してあく場合は縦、横、斜補強筋とは別に開口によって切られる鉄筋と同じ鉄筋を開口させて補強する。

床板厚さD	周囲	斜め
D≦150	各2-D13	各1-D13
150＜D≦200	各2-D13	各2-D13
200＜D≦300	各2-D19	各2-D16

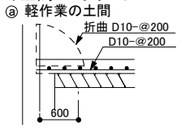
※ダブル配筋の場合は、上端筋および下端筋それぞれに配置する。

(5)床板段差

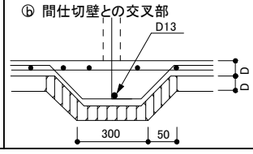


(6)土間コンクリート

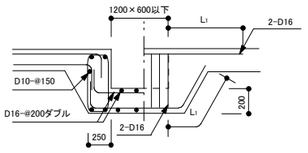
ⓐ 軽作業の土間



ⓑ 間仕切壁との交叉部



(7)釜場



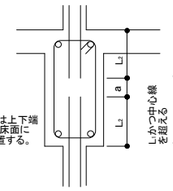
(8)打継ぎ補強(ダメ穴打継面について)

●設計配筋間隔の1/2ピッチ 長さ2L1以上
●無筋部分のD10-@200 長さ800以上

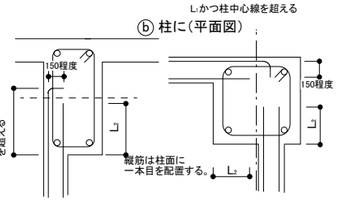
9. 壁

(1)定着

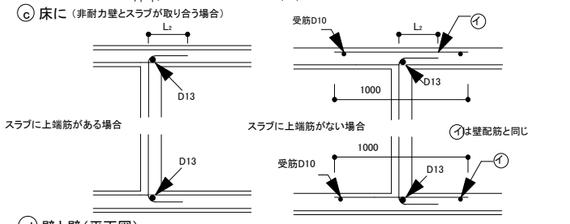
ⓐ 梁に



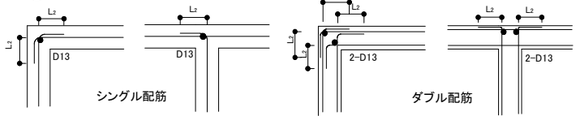
ⓑ 柱に(平面図)



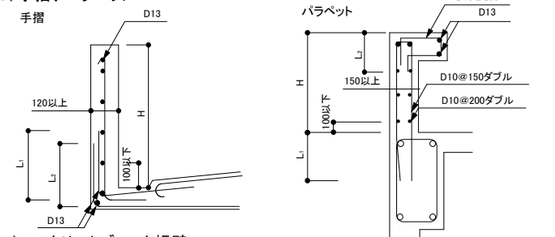
ⓒ 床に (非耐力壁とスラブが取り合う場合)



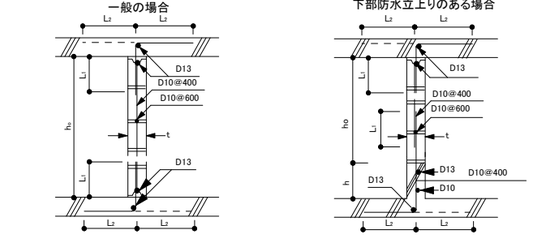
ⓓ 壁と壁(平面図)



(3)手摺、パラペット



(4)コンクリートブロック帳壁

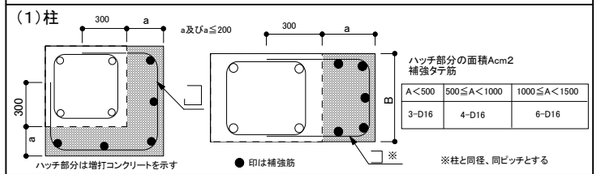


注)ho≦25tかつ3500以下とする。但し直交方向25t以内に壁、又は柱がある場合は除く
注)hはコンクリートブロック段数調節寸法とする。但し、200≦h≦400
注)継手部は必ずモルタルをてん充すること。

10. 柱、梁増打コンクリート補強

(増打するときは事前に設計者、及び工事監理者と打合わせのこと)

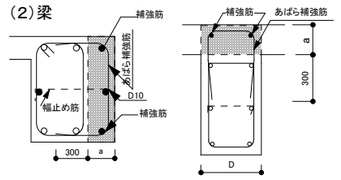
(1)柱



ハッチ部分の面積Acm2
補強タテ筋

A＜500	500≦A＜1000	1000≦A＜1500
3-D16	4-D16	6-D16

(2)梁

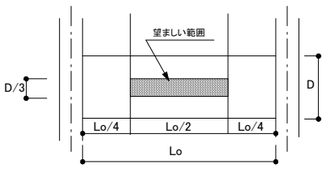


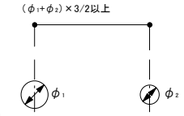
●補強筋は、梁主筋の1段落し径(D16以上)とする
●あばら補強筋は、梁と同径、同ピッチとする
●腹筋D10ピッチは梁の腹筋と合せる
●D≧400の場合は補強筋を3本とする
●aは100～200程度
●梁下端増打コンクリートの場合も上端増打コンクリート補強と同様とする
●ハッチ部分は増打コンクリートを示す。

11. 梁貫通孔補強

(1)設置可能範囲

梁端部(スパンLo/10以内かつ2D以内)は避ける





貫通孔が連続して間隔等が取れない場合は設計者又は工事監理者と打ち合わせのこと。

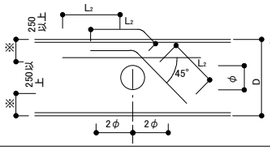
(2)鉄筋標準配筋

但しφ≦D/3とする

80≦φ≦100	100＜φ≦150	150＜φ≦250
折筋 2-(2-D13)	折筋 2-(2-D13)	斜筋 4-(2-D13)
縦筋 ST 2-D13-100@	縦筋 ST 2-D13-100@	縦筋 ST 2-D13-100@
	横筋 2-(2-D13)	横筋 2-(2-D13)
		上下縦筋 ST- 2-D13

φ＞250

孔補強の有効範囲と定着長さのとり方



※部分について計算で確認された場合は下記の位置、寸法によらなくても良い。

●梁幅が400を超える場合は補強筋でD13はD16又は、2-D13は3-D13と、各々読みかえる

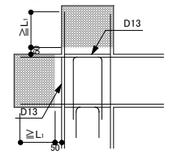
(3)既製品(使用するときは、設計者又は工事監理者と打ち合わせのこと。)

□リング型 □パイプ型 □金網型 □プレート型

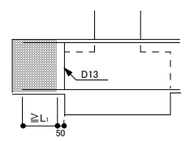
12. 増築予定

(将来増築予定のコンクリート増打ち部分は、増築時の鉄筋継手工法を考慮して措置する。)

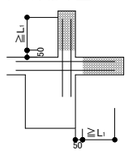
(1)柱、梁



(2)地中梁



(3)床版、壁



特記	構造設計 岡田勇佑構造設計事務所 一級建築士 大臣登録 第366064号 岡田勇佑	SUO・Tetor共同企業体 一級建築士 大臣登録 第372122号 周防貴之	工事名称 奈義町アートの森整備工事(第一期) A棟	図面の名称 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)	縮尺	日付 令和8年11月12日	No. S003

木質構造標準仕様書

1. 基礎工事
下記以外の仕様とする場合は、設計者の承認を得ること。

1.1. 一般事項
1.基礎は、1階の外周部及び内部耐力壁の直下に設ける。
2.基礎の構造は、次のいずれかをとる。
イ.布基礎
ロ.腰壁と一体になった布基礎
ハ.べた基礎
ニ.基礎ぐいを用いた構造

1.2 布基礎
布基礎の構造は、次による。
1.布基礎の構造は、一体の鉄筋コンクリート造（部材相互を緊結したプレキャストコンクリート造を含む。）とする。
2.地面からの布基礎の立上がりは、400mm以上とする。
3.布基礎の立上がりの厚さは120mm以上とし、底盤の厚さは150mm以上、幅は450mm以上とする。また、根入れ深さは、地面より240mm以上とし、かつ、建設地域の凍結深度よりも深いもの、もしくは、凍結を防止するための有効な措置を講ずるものとする。
4.基礎の配筋は、次による。
イ.立ち上がり部分の主筋として径12mm以上の異形鉄筋を、立上がり部分の上端及び立上がり部分の下部の底盤にそれぞれ1本以上配置し、かつ、補強筋と緊結させる。
ロ.立上がり部分の補強筋として径9mm以上の鉄筋を縦に300mm以下の間隔で配置する。
ハ.底盤部分の補強筋として径9mm以上の鉄筋を300mm以下の間隔で配置し、底盤の両端部に配置した径9mm以上の鉄筋の緊結させる。
ニ.換気口を設ける場合は、その周辺に径9mm以上の補強筋を配置する。

1.3 べた基礎・基礎ぐい
べた基礎の構造または基礎ぐいを用いた構造は、次による。
1.べた基礎の構造及び基礎ぐいを用いた場合の基礎ばりの構造は、一体の鉄筋コンクリート造（部材相互を緊結したプレキャストコンクリート造を含む。）とする。
2.地面からの立上がり部分の高さは400mm以上とする。
3.その他の構造方法については、構造計算によるものとし、特記による。

1.4 腰壁
1.1階の浴室廻り（当該浴室に浴室ユニットを使用した場合を除く。）には、布基礎の上にコンクリートブロックを積み上げた腰壁若しくは鉄筋コンクリート造による腰高布基礎を設けるか、または壁の軸組に対して防水上有効な措置を講じるものとする。
2.便所、浴室廻り等で布基礎の上にコンクリートブロックを積み上げた腰壁とする場合は、次による。なお、鉄筋コンクリート造とする場合は、特記による。
イ.コンクリートブロックの品質は、JISA5406（建築用コンクリートブロック）に適合するもの又はこれと同等以上の性能を有するものとする。
ロ.目地及び充填用に用いるモルタルのセメント、砂の調合は、容積比にして1:3を標準とする。
ハ.コンクリートブロックは、布基礎の上に積上げるものとし、積上げ高は6段以内とする。
ニ.コンクリートブロックを補強する鉄筋の太さはD10又はφ9mmとし、縦筋については、隅角部及び間隔400mm以内に配筋する。
ホ.縦筋の布基礎への埋込み長さは、異形鉄筋でフックがないものを使用する場合は400mm以上、丸鋼でフックがあるものを使用する場合は405mm以上とする。
ヘ.寒冷期に施工する場合は、気温に応じて適切な養生を行う。

1.5 土間コンクリート床
1階床組を行わず、1階全面を土間コンクリート床で形成する場合は、次による。
イ.外周部布基礎沿いには、結露防止のため厚さ25mm以上の発砲プラスチック系断熱材を布基礎天端から下方へ底盤の上端まで施工する。ただし、温暖地等においては、断熱材を省略できる。
ロ.凍土のおそれの場合は、上記イの断熱材の厚さを50mm以上とし、凍結深度以上貼り付ける。
ハ.土間コンクリート床の下層の盛土については、地盤面より2層にわけて行い、それぞれ十分締め固める。なお、盛土に使用する土は、有機性の土、活性の粘土及びシルト類を避け、これら以外のものとする。
ニ.盛土の上に目つぶし砂利を厚さ50mm以上敷きつめ十分締め固める。その上にJISA6930（住宅用プラスチック系防湿フィルム）、JISZ1702（包装用ポリエチレンフィルム）若しくはJISK6781（農業用ポリエチレンフィルム）に適合するもの又はこれらと同等以上の効力を有する防湿フィルムで厚さ0.1mm以上のものを全面に敷く。
ホ.厚さ120mm以下の配筋は特記による。特記なき場合は厚さ120mm以上とし、その中央部にワイヤーメッシュ（径4mm以上の鉄線を縦横に間隔150mm以内に組み合わせたもの）を配する。

1.6 コンクリートの調合及び強度等

構造設計標準仕様を参照とする。

1.7 鉄筋材料

構造設計標準仕様を参照とする。

1.8 アンカーボルト
1.アンカーボルト及び座金は、品質及び性能が明示された良質なものとする。
2.アンカーボルトの埋設設置は、次による。
イ.筋かいを設けた耐力壁の部分は、その両端の柱の下部にそれぞれ近接した位置とする。ただし、ホールダウン専用アンカーボルトが取り付けられた場合は省略することができる。
ロ.構造用合板等を張った耐力壁の部分は、その両端の柱の下部にそれぞれ近接した位置とする。ただし、ホールダウン専用アンカーボルトが取り付けられた場合は省略することができる。
ハ.土台切れの箇所、土台継手及び土台仕口箇所の上木端部とし、当該箇所が出隅部分の場合は、できるだけ柱に近接した位置とする。
ニ.上記イ、ロ及びハ以外の部分においては、2階建以下の場合は間隔2.7m以内、3階建ての場合は間隔2m以内とする。
3.アンカーボルトの心出しは、壁板を用いて基準墨に正しく合わせ、適切な機器などで正確に行う。
4.アンカーボルトのコンクリートへの埋込み長さは240mm以上とし、アンカーボルトの先端は、土台の上端よりナットの外にねじが3山以上でるように固定する。
5.アンカーボルトの保持は、型板を用いるなどして正確に行い、移動、下部の揺れなどのないように十分固定する。
6.アンカーボルトの保持及び埋込み工法の種別は、特記による。特記がない場合は、アンカーボルトを鉄筋などを用いて組み立て、適切な補助材で型枠の類に固定し、コンクリートの打ち込みを行う。
7.アンカーボルトは、衝撃などにより有害な曲がりを生じないように取り扱う。また、ねじ部の損傷、さびの発生、汚損を防止するために布、ビニールテープなどを巻いて養生を行う。

1.9 ホールダウン専用アンカーボルト
1.ホールダウン専用アンカーボルトは、品質及び性能が明示された良質なものとし、コンクリートへの埋込み長さは360mm以上とする。
2.ホールダウン専用アンカーボルトの埋設方法は次による。
イ.ホールダウン金物を専用アンカーボルトで直接緊結する場合は、取り付く柱の位置に専用アンカーボルトを正確に埋込む。
ロ.ホールダウン金物（10KN以下）を土台用専用座金付ボルトで緊結する場合は、土台用専用座金付ボルトの心より150mm内外にアンカーボルトを埋込む。
3.専用アンカーボルトの心出し・保持等は、1.1.8（アンカーボルト）の3、5、6及び7の項による。

1.10 床下換気
床下空間が生じる場合の床下換気措置は次による。ただし、（基礎断熱工事）により基礎の施工を行う場合は、床下換気孔は設置しないこととする。
1.外周部の基礎は有効換気面積300以上の床下換気孔を間隔4m以内ごとに設る。
2.床下換気孔にはねずみ等の侵入を防ぐため、スクリーンなどを堅固に取り付ける。
3.外周部以外の室内の布基礎には、適切な位置に通風と点検に支障のない寸法の床下換気孔を設ける。

1.11 配管スリーブ
基礎を貫通して設ける配管用スリーブは、基礎にひび割れが生じない部分で、雨水が流入しない位置に設ける。

1.12 天端ならし
やりかたを基準にして陸墨を出し、布基礎の天端をあらかじめ清掃、水湿し、セメント、砂の調合が容積比にして1:3のモルタルなどを水平に塗りつける。

1.13 床下防湿
床下防湿措置は、次の1、2のいずれかによる。ただし、基礎の構造をべた基礎とした場合はこの限りではない。
1.防湿用のコンクリートを施工する場合
イ.床下地面全面に厚さ60mm以上のコンクリートを打設する。
ロ.コンクリート打設に先だち、床下地盤は盛土し、十分突き固める。
2.防湿フィルムを施工する場合
イ.床下地面全面にJISA6930（住宅用プラスチック系防湿フィルム）、JISZ1702（包装用ポリエチレンフィルム）若しくはJISK6781（農業用ポリエチレンフィルム）に適合するもの又はこれらと同等以上の効力を有する防湿フィルムで厚さ0.1mm以上のものを敷きつめる。
ロ.防湿フィルムの重ね幅は150mm以上とし、防湿フィルムの全面を、乾燥した砂、砂利又はコンクリート押えとする。

2. 軸組
使用する木材はすべて、工場内にて機械により継手及び仕口の加工（プレカット）を行った製材とする。特記外、上記以外を使用する場合は、設計者に確認をとること。

2.1 土台
特記なき場合は下記による。
1.土台の断面寸法は、柱と同じ寸法以上かつ105mmx105mm以上とする。
2.継手は、柱及び床下換気孔の位置を避け、腰掛けあり継ぎ又は腰掛けかま継ぎとする。
3.仕口は次による。
イ.隅部取合部は、大入れこねほぞ差し割りくさび締め又はあり掛けとする。
ロ.T字取合部及び十字取合部は、大入れあり掛けとする。

2.3 柱・梁
本項の内容は特記無き限り、針葉樹の構造用製材及び広葉樹の製材及び枠組壁工法構造用製材等の日本農林規格に準ずること。
1. 記入無き梁桁、母屋、タル木等の曲げ材のうち、見えがかり材は目視等級材の甲種2級、見えない部分の木材は甲種3級とする。その他は乙種2級とする。
2.主要構造部には機械等級区分製材を用いることを原則とする。
3.乾燥の際背割りを行う。但し見えがかり部・相欠き部材・構造用合板の釘接合面には行わない。
4.含水率はD20 とし下地材等に用いる場合でも含水率D25以下であることを確認する。
5.強度等級を指定した材料は特に、材料の欠点の節、目切れ等に注意して材料を選定し、仕口や接合部に欠点が当たらないように加工する。
6.材の曲がりについては、指定にかかわらず目視等級1級相当とする。
7.主要構造部にはKD材を用いること

①針葉樹の構造用製材のJASに適合する目視等級区分による基準強度

樹種	区分	等級	基準強度（単位 N/mm2） Fc	Ft	Fb	Fs	使用箇所
ヒノキ	甲種構造材	一級	30.6	22.8	38.4	2.1	□梁 □柱
		二級	27.0	20.4	34.2	2.1	■梁 □柱
		三級	23.4	17.4	28.8	2.1	□梁 □柱
	乙種構造材	一級	30.6	18.6	30.6	2.1	□梁 □柱
		二級	27.0	16.2	27.0	2.1	□梁 □柱
		三級	23.4	13.8	23.4	2.1	□梁 □柱
すぎ	甲種構造材	一級	21.6	16.2	27.0	1.8	□梁 □柱
		二級	20.4	15.6	25.8	1.8	□梁 □柱
		三級	18.0	13.8	22.2	1.8	□梁 □柱
	乙種構造材	一級	21.6	13.2	21.6	1.8	□梁 □柱
		二級	20.4	12.6	20.4	1.8	□梁 ■柱
		三級	18.0	10.8	18.0	1.8	□梁 □柱

②針葉樹の構造用製材のJASに適合する機械等級区分による基準強度

樹種	等級	基準強度（単位 N/mm2） Fc	Ft	Fb	Fs	使用箇所
ヒノキ	E70	18.0	13.2	22.2	2.1	□梁 □柱
	E90	24.6	18.6	30.6	2.1	□梁 ■柱
	E110	31.2	23.4	38.4	2.1	□梁 □柱
	E130	37.8	28.2	46.8	2.1	□梁 □柱
すぎ	E50	19.2	14.4	24.0	1.8	□梁 ■柱
	E70	21.6	16.2	26.4	1.8	□梁 □柱
	E90	28.2	21.0	34.8	1.8	□梁 ■柱
	E110	32.4	24.6	40.8	1.8	□梁 □柱
	E130	37.2	27.6	46.2	1.8	□梁 □柱
	E150	41.4	31.2	51.6	1.8	□梁 □柱

③集成材

樹種	等級	基準強度（単位 N/mm2） Fc	Ft	Fb	Fs	使用箇所
ベイマツ	E120-F330	25.9	22.4	33.0	3.3	■梁 □柱
すぎ	E140-F420	31.7	27.7	42.0	2.7	□梁 ■柱
けやき	E140-F420	31.7	27.7	42.0	4.8	■梁 □柱

※部材リスト参照

※同等強度の材種への変更可能とし、できる限り県産材を使用すること

2.4 間柱
1.横架材との仕口は、上部ほぞ差し下部突きつけとし、下部はN75釘を斜め打ちとする。
2.筋かい当たりは、間柱を切り欠き、N75釘2本を平打ちする。
3.通しぬき当たりは、添え付けてN65釘2本を平打ちする。

2.5 胴差
1.断面寸法は、加重の状態及びスパン等を勘案して適切なものとし、特記による。
2.継手は、はり及びすじかいを受ける柱間を避け、柱より持出し、追掛け大せん継ぎ又は腰掛けかま継ぎとする。
3.通し柱との仕口は、かたぎ大入れ短ほぞ差しとし、金物の補強は次のいずれかによる。
イ.短ざく金当て六角ボルト締め、スクリュー釘打ちとする。
ロ.かね折り金当て六角ボルト締め、スクリュー釘打ちとする。
ハ.羽子板ボルト締めとする。

2.6 軒げた
1.断面寸法は、荷重の状態及びスパン等を勘案して適切なものとし、特記による。
2.継手は、はりを受ける柱間を避け、柱より持ち出し、追掛け大せん継ぎ、腰掛けか継ぎ又は腰掛けあり継ぎとする。

2.7 間仕切りげた（頭つなぎ）
1.継手は、はりを受ける柱間を避け、柱より持出し、腰掛けかま継ぎ又は腰掛けあり継ぎとする。
2.主要な間仕切りげたとげた又は胴差とのT字取合部の仕口は、大入れおり掛けとし、羽子板ボルト締めとする。

2.8 木造筋かい
1.断面寸法は30mmx90mm以上とする。
2.見付け平使いとする。
3.筋かいが間柱と取り合う部分は、間柱を筋かいの厚さだけ欠きとって筋かいを通す。

2.9 通しぬき
柱に差し通し、両面からくさび締め又は釘打ちとする。

3. 大壁造の面材耐力壁

3.1 大壁耐力壁の種類

面材耐力壁の種類	材料	厚さ	くぎ打ちの方法 くぎの種類	くぎの間隔
構造用合板 □1級 ■2級	構造用合板のJASに適合するもので、種類は特類とし、厚さ7.5mm以上とし、板厚については特記とする。	□7.5mm ■9mm □12mm □15mm □18mm □24mm	□N50 □N65 □N75 □N90 ■CN50 □CN65 □CN75 □CN90	構造図による
□パーティクルボード	JISA5908（パーティクルボード）に適合するもので、種類は曲げ強さの区分が8タイプ以外のもの、厚さは12mm以上とし、板厚については特記による。			
□構造用パネル	構造用パネルのJASに適合するもの			
□ハードボード	JISA5905（繊維板）に適合するもので、曲げ強さの種類は、35タイプまたは45タイプとし、厚さは5mm以上とし、板厚については特記による。			
□硬質木片セメント板	JISA5404（木質系セメント板）に適合するもので、種類は硬質木片セメント板とし、厚さは12mm以上とし、板厚については特記による。			
□せっこうボード	JISA6901（せっこうボード製品）に適合するもので、厚さは12mm以上とし、板厚については特記による。		GNF40 又は GNC40	
□シージングボード	JISA5905（繊維板）に適合するもので、種類はシージングインシュレーションボードで厚さは12mm以上とし板厚については特記による。		SN40	一枚の壁材につき外周部分は10cm以下その他の部分は20cm以下
□ラスボード	JISA5524（ラスシート（角波亜鉛鉄板ラス））に適合するもので、種類はLS4（メタルラスの厚さが0.6mm以上のものに限る）とし、板厚については特記による。		N38	15cm以下

3.2 工法一般
1.構造用面材は、柱、間柱及び土台・はり・けた・その他の横架材に確実に釘で留めつける。
2.1階及び2階部の上下同位置に構造用面材の耐力壁を設ける場合は、胴差部において、構造用面材相互間に原則として、6mm以上のあきを設ける。
3.構造用面材は横張り又は縦張りとする場合で、やむをえず、はり、柱等以外で継ぐ場合は、間柱及び同縁等の断面は45mmx100mmm以上とする。

3.3 構造用面材の張り方
1.構造用合板の張り方は、3’×9’版（910mmx2730mm）を縦張りとする。やむをえず、3’x6’版（910mmx1820mm）を用いる場合は、縦張りまたは横張りとする。
2.パーティクルボードの張り方は、構造用合板と同様とし、胴差部分以外の継目部分は2?3mmの間隔をあける。
3.構造用パネルの張り方は、パーティクルボードと同様とする。
4.ハードボードの張り方は、パーティクルボードと同様とする。
5.硬質木片セメント板の張り方は、壁軸組に防水テープを張るか又は壁全面に防水紙を張り、その上から3’x9’版（910mmx2730mm）を縦張りとする。
6.シージングボードの張り方は、構造用合板と同様とする。
7.せっこうボードの張り方は、3’x8’（910mmx2420mm）、又は3’×9’版（910mmx2730mm）を縦張りとし、やむをえず、3’x6’版（910mmx1820mm）を用いる場合は、縦張り又は横張りとする。
8.ラスシートの張り方は、3’x8’（910mmx2420mm）、又は3’×9’版（910mmx2730mm）を縦張りとし、土台から壁上部まで貼りつける。ラスシートの施工にあたっては、次の点に留意する。
イ.見切りの各部には、水切り、雨押えを設ける。
ロ.継ぎ目は、横重ね代を一山重ねとし、縦重ね代を30mm以上とする。なお、鉄板は鉄板で、ラスはラスで重ねる。
ハ.開口部等でラスシートを切り抜く場合は、事前に鉄板を短く、ラスを長くなるよう切断し、巻き込む。

4. 真壁造の面材耐力壁

4.1 真壁耐力壁の種類等
構造用合板、各種ボード類（以下「構造用面材」という。）による真壁造の面材耐力壁は受材を用いる場合（受材タイプ）と貫を用いる場合（貫タイプ）があり、その種類は大壁の項を参照とし、シージングボード、ラスボードは除く。せっこうラスボードの場合は設計者に確認をし、承認を得ること。

4.2 工法一般
1.構造用面材の下地に、受材を用いる場合は次による。
イ.受材は30mmx40mm以上とする。
ロ.受材は柱及びはり、けた、土台、その他の横架材にN75以上の釘を30cm以下の間隔で平打ちとする。
ハ.構造用面材は、受材並びに間柱及び胴つなぎ等に留めつける。
ニ.構造用面材を受材以外で継ぐ場合は、間柱又は胴つなぎ等の断面は45mmx65mm以上とする。
2.構造用面材の下地に、貫を用いる場合は次による。
イ.貫は15mmx90mm以上とする。
ロ.貫は5本以上設ける。
ハ.最上段の貫とその直上の横架材との間隔及び再下段の貫とその直下の横架材との間隔は、おおむね30cm以下とし、その他の貫の間隔は61cm以下とする。
ニ.貫を柱に差し通す場合は、両面からくさび締め又は釘打ちとする。
ホ.貫の継手は、おおむね柱心で突付けとする。
ヘ.柱との仕口は、柱の径の1/2程度差し込みくさび締め又は釘打ちとする。
ト.構造用面材は、貫に確実に釘で留めつける。
チ.構造用面材を継ぐ場合は、貫上で行う。

4.3 構造用面材
1.受材を用いた構造用面材の張り方は、5.3.3の項を参照とする。ただし、せっこうラスボードを用いる場合は下記による。
イ.せっこうラスボードの張り方は、3’x8’（910mmx2420mm）を縦張りとし、やむをえず、3’x6’版（910mmx1820mm）を用いる場合は、縦張り又は横張りとする。
2.貫を用いた構造用面材の張り方は次による。
イ.構造用合板の張り方は、原則として横張りとする。
ロ.せっこうラスボードの張り方は、原則として横張りとする。
ハ.せっこうボードの張り方は、原則として横張りとする。

特記	構造設計 岡田勇佑構造設計事務所 一級建築士 大臣登録 第366064号 岡田勇佑	SUO・Tetor共同企業体 一級建築士 大臣登録 第372122号 周防貴之	工事名称 奈義町アートの森整備工事（第一期） A棟	図面の名称 木質構造標準仕様書	縮尺	日付 令和8年11月12日	No. S004

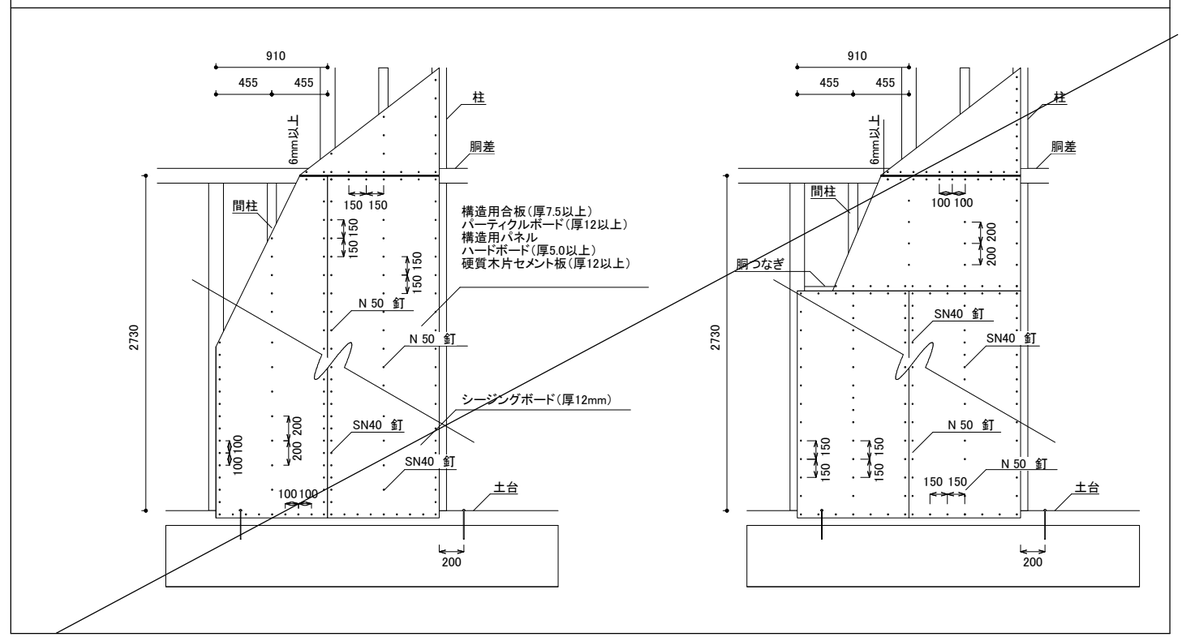
木質構造標準図

種類	短ざく金物	かね折り金物	ひら金物	山形プレート	かど金物	羽子板ボルト	帯金物			アンカーボルト		角座金				
記号	S	SA	SM-40	VP	CP・T CP・L	SB・F SB・E SB・F2 SB・E2	W4.5×40	W6.0×54	W9.0×80	A60	A70	S-45	S-50	S-65	S-90	SW-67
形状・寸法（mm）	L:300,330,360 390,420,450	L:210,240,270 300,345	SM-12 SM-40	太めくぎ 8-ZN90	太めくぎ 10-ZN65	L:280,310,340,370,400,430	W4.5×40	W6.0×54	W9.0×80			太めくぎ 6-ZN40	太めくぎ 12-ZN65	太めくぎ 16-ZN65	太めくぎ 12-ZN40	太めくぎ 26-ZN65
	六角ボルト2-M12 六角ナット2-M12 角座金2-W4.5×40 スクリュー釘3-ZS50	六角ボルト2-M12 六角ナット2-M12 角座金2-W4.5×40 スクリュー釘3-ZS50	SM12 太めくぎ 4-ZN65 SM40 太めくぎ 12-ZN65			六角ボルト 1-M12 六角ナット 2-M12 角座金 2-W4.5×40 スクリューくぎ 1-ZS50 六角ボルト 1-M12 六角ナット 2-M12 角座金 2-W4.5×40									
用途（一例）	通し柱 横架材	通し柱 横架材	柱 横架材 大引 束	柱 土台	横架材 柱 筋かい 柱 土台	横架材 通し柱 通し柱 通し柱 横架材 横架材										

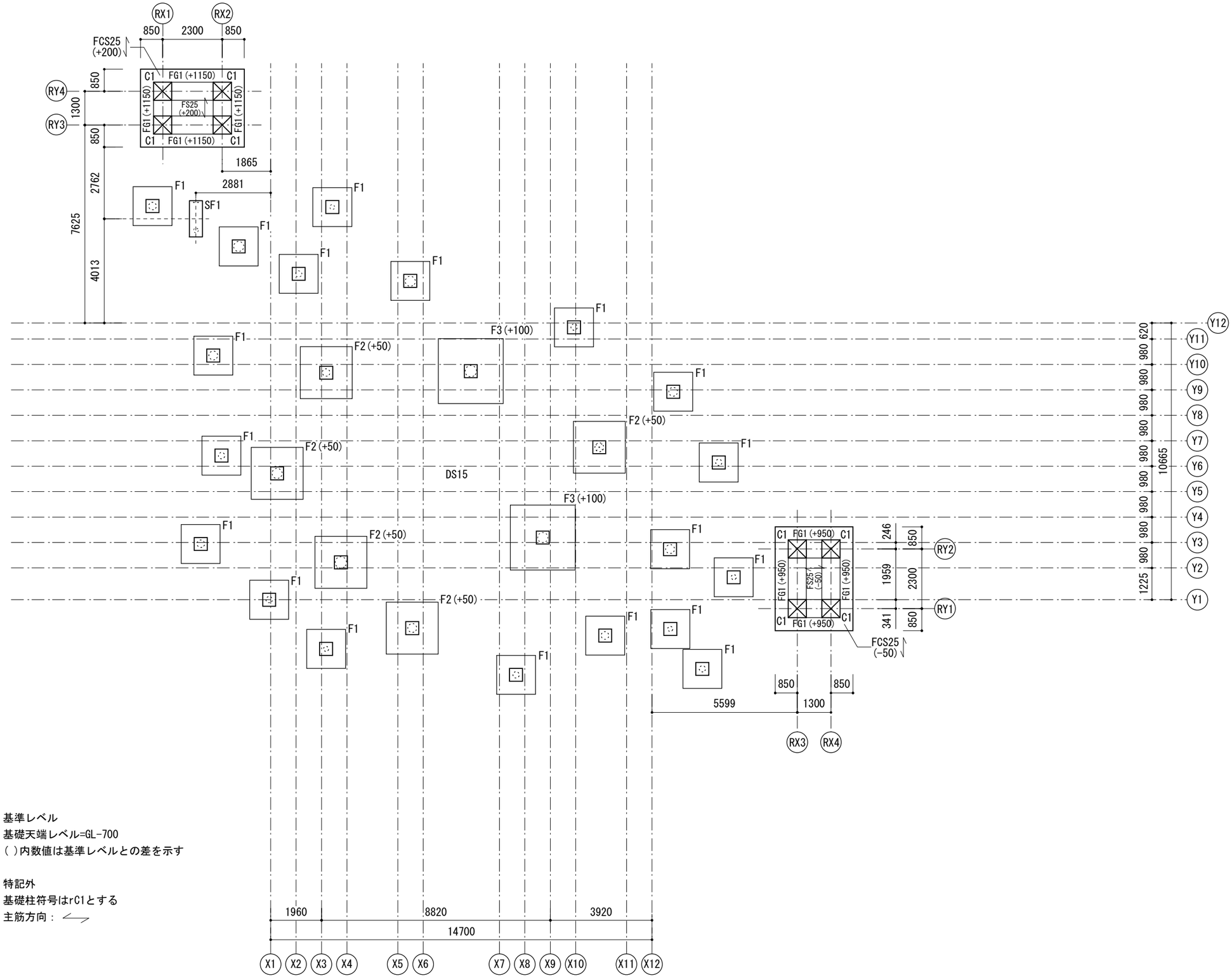
種類	引き寄せ金物（ホールダウン金物）								
記号	HD-N5 (HDN-5)	HD-N10 (HDN-10)	HD-N15 (HDN-15)	HD-N20 (HDN-20)	HD-N25 (HDN-25)	S-HD10	S-HD15	S-HD20	S-HD25
形状・寸法（mm）	HD-N5	HD-N10	HD-N15	HD-N20	HD-N25	S-HD10	S-HD15	S-HD20	S-HD25
	太めくぎ 6-ZN90	太めくぎ 10-ZN90	太めくぎ 16-ZN90	太めくぎ 20-ZN90	太めくぎ 26-ZN90	六角ボルト 2-M12 又は ラグスクリュー 2-LS12	六角ボルト 3-M12 又は ラグスクリュー 3-LS12	六角ボルト 4-M12 又は ラグスクリュー 4-LS12	六角ボルト 5-M12 又は ラグスクリュー 5-LS12
用途（一例）	横架材 柱 柱	柱 横架材 柱	土台 柱	柱 土台	柱 土台	横架材 柱 柱	柱 横架材 柱		

柱:たて枠へ(S-HD20の場合)
六角ボルト 4-M12 六角ナット 4-M12 角座金 4-W4.5×40
又はラグスクリュー 4-LS12
土台へ
座金付ボルト 1-M16W 六角ナット 1-M16
柱:たて枠相互の緊結の金物相互は
六角ボルト 1-M16 六角ナット 1-M16

大壁における構造用面材の張り方



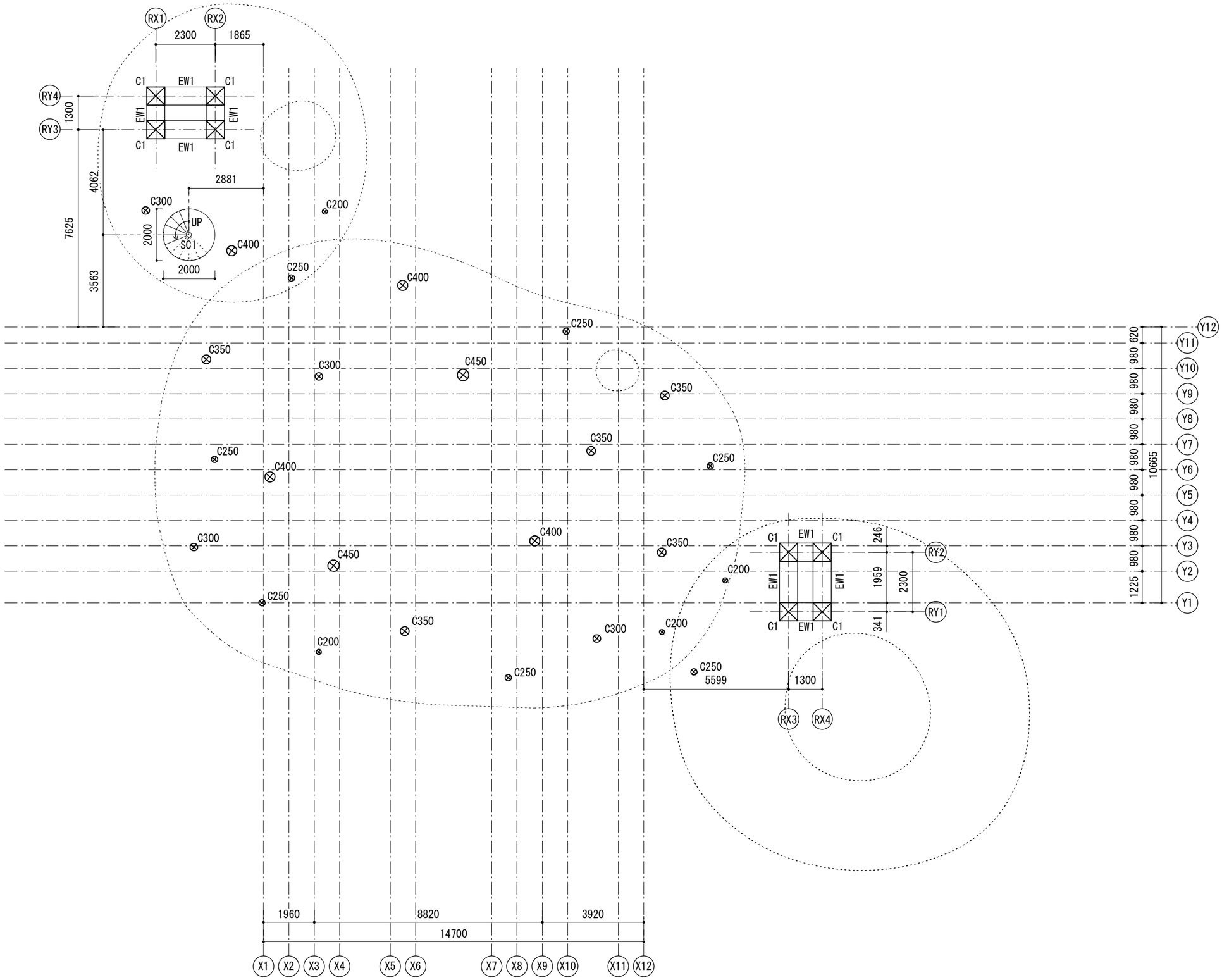
特記	構造設計	SUO・Tetor共同企業体	工事名称	図面の名称	縮尺	日付	No.
	岡田勇佑構造設計事務所 一級建築士 大臣登録 第366064号 岡田勇佑	一級建築士 大臣登録 第372122号 周防貴之	奈義町アートの森整備工事（第一期） A棟	木造軸組み接合部標準図		令和8年11月12日	S005



基準レベル
基礎天端レベル=GL-700
( )内数値は基準レベルとの差を示す

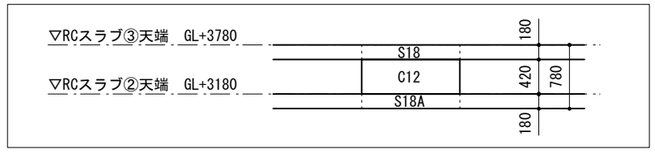
特記外
基礎柱符号はrC1とする
主筋方向：

特記	構造設計 岡田勇佑構造設計事務所 一級建築士 大臣登録 第366064号 岡田勇佑	SUO・Tetor共同企業体 一級建築士 大臣登録 第372122号 周防貴之	工事名称 奈義町アートの森整備工事（第一期）A棟	図面の名称 基礎伏図	縮尺 1/150	日付 令和8年11月12日	No. S006

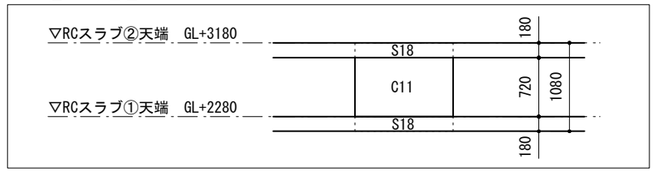


特記	構造設計 岡田勇佑構造設計事務所 一級建築士 大臣登録 第366064号 岡田勇佑	SUO・Tetor共同企業体 一級建築士 大臣登録 第372122号 周防貴之	工事名称 奈義町アートの森整備工事(第一期) A棟	図面の名称 1階床伏図	縮尺 1/150	日付 令和8年11月12日	No. S007

・RC柱C12断面図



・RC柱C11断面図



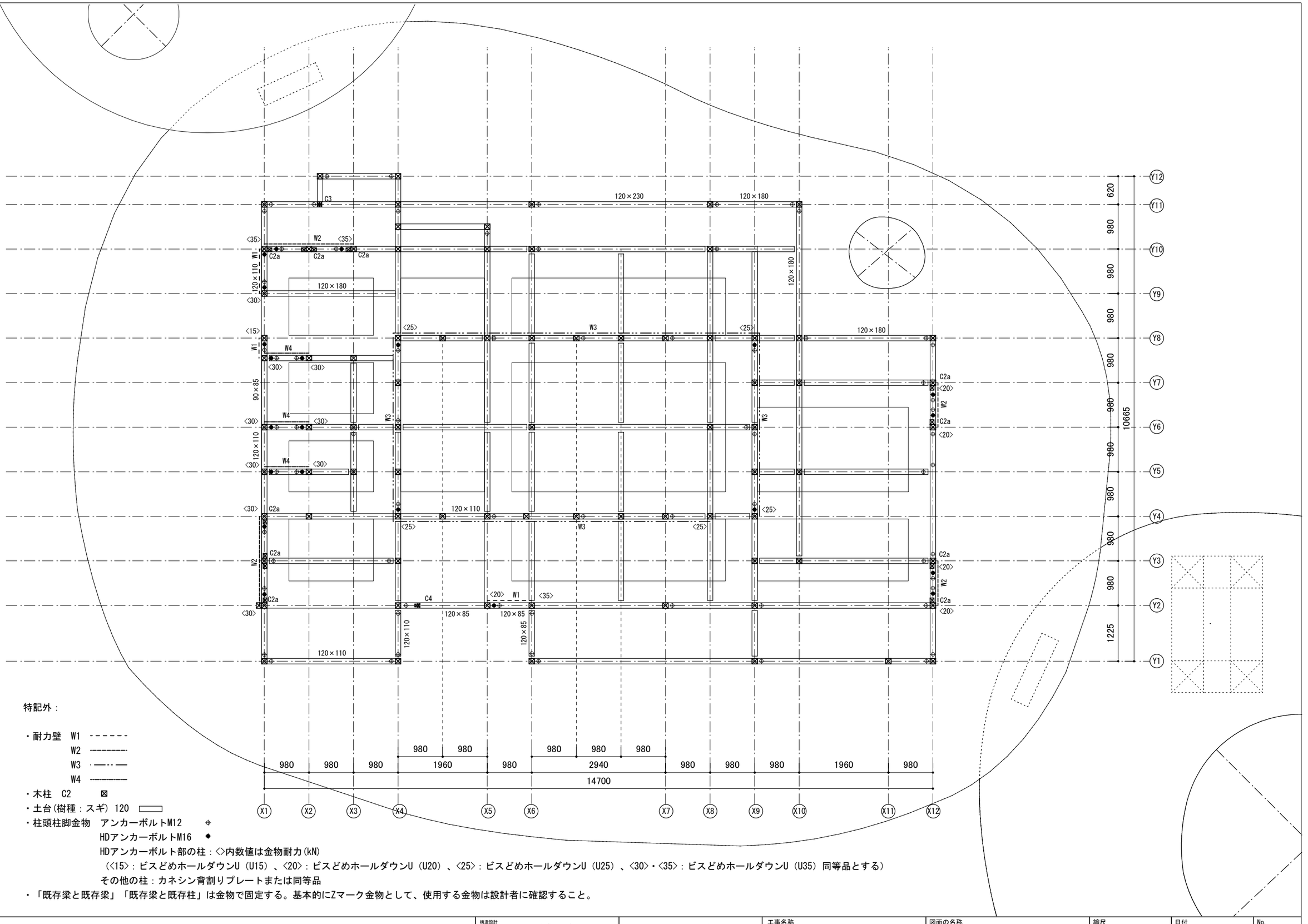
基準レベル
RCスラブ②天端レベル=GL+3180
( )内数値は基準レベルとの差を示す

特記外
主筋方向：
スラブ符号S18A,S18Bは柱芯から2000の範囲とする
*付きの寸法は意匠図を優先すること

・スラブ端部補強筋詳細図

A断面図

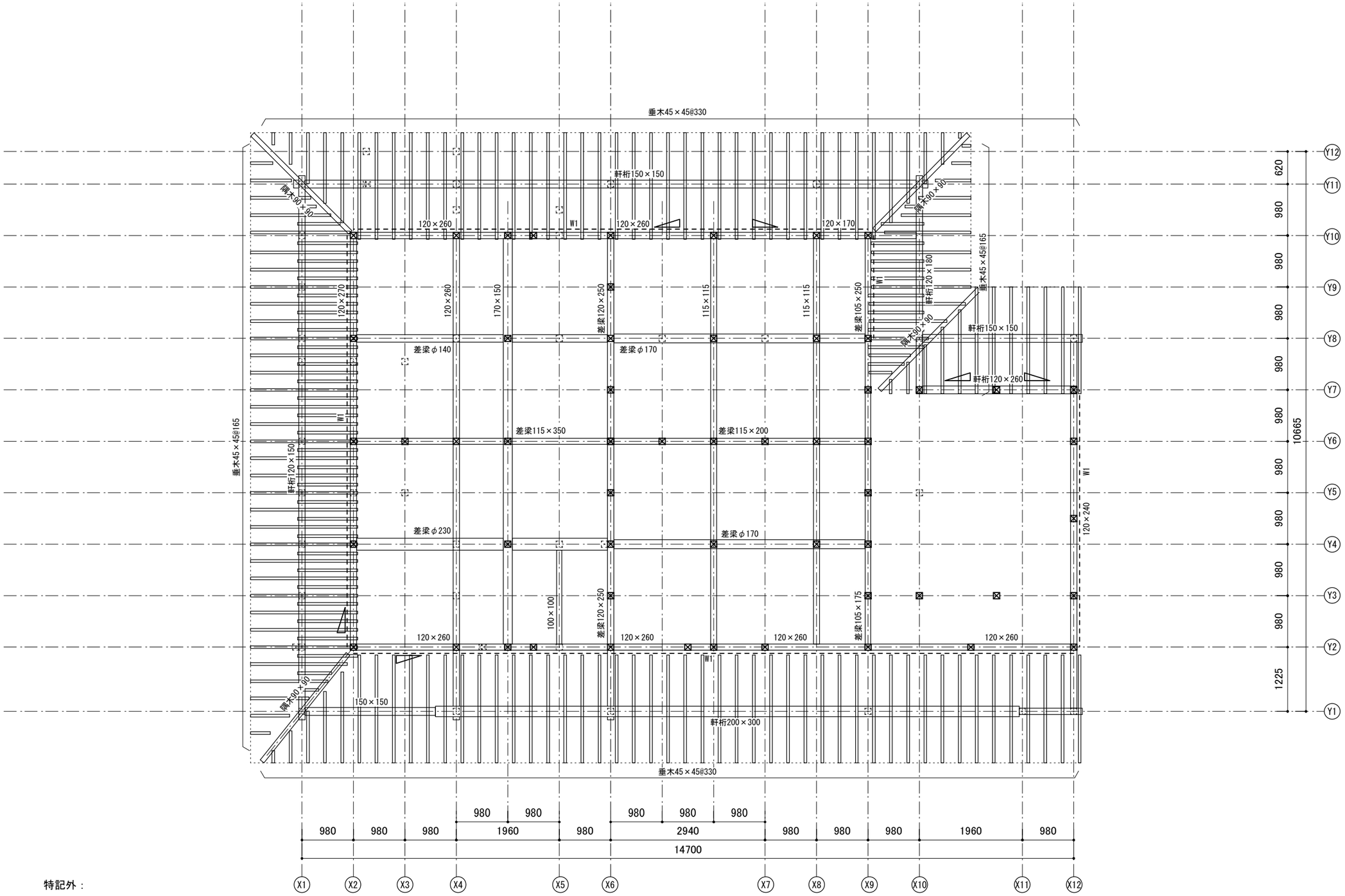
特記	構造設計 岡田勇佑構造設計事務所 一級建築士 大臣登録 第366064号 岡田勇佑	SUO・Tetor共同企業体 一級建築士 大臣登録 第372122号 周防貴之	工事名称 奈義町アートの森整備工事(第一期) A棟	図面の名称 2階床伏図(1)	縮尺 1/150	日付 令和8年11月12日	No. S008



特記外：

・耐力壁　W1 ------
　　W2 ----------
　　W3 ·—··—
　　W4 ----------
・木柱　C2　⊠
・土台(樹種：スギ) 120
・柱頭柱脚金物　アンカーボルトM12
　　HDアンカーボルトM16
　　HDアンカーボルト部の柱：<>内数値は金物耐力(kN)
　　(<15>：ビスどめホールダウンU（U15）、<20>：ビスどめホールダウンU（U20）、<25>：ビスどめホールダウンU（U25）、<30>・<35>：ビスどめホールダウンU（U35）同等品とする)
　　その他の柱：カネシン背割りプレートまたは同等品
・「既存梁と既存梁」「既存梁と既存柱」は金物で固定する。基本的にZマーク金物として、使用する金物は設計者に確認すること。

特記	構造設計 岡田勇佑構造設計事務所 一級建築士　大臣登録　第366064号　岡田勇佑	SUO・Tetor共同企業体 一級建築士　大臣登録　第372122号　周防貴之	工事名称 奈義町アートの森整備工事(第一期) A棟	図面の名称 2階床伏図(2)・土台伏図	縮尺 1/150	日付 令和8年11月12日	No. S009



特記外：

・木柱　C2　　⊠

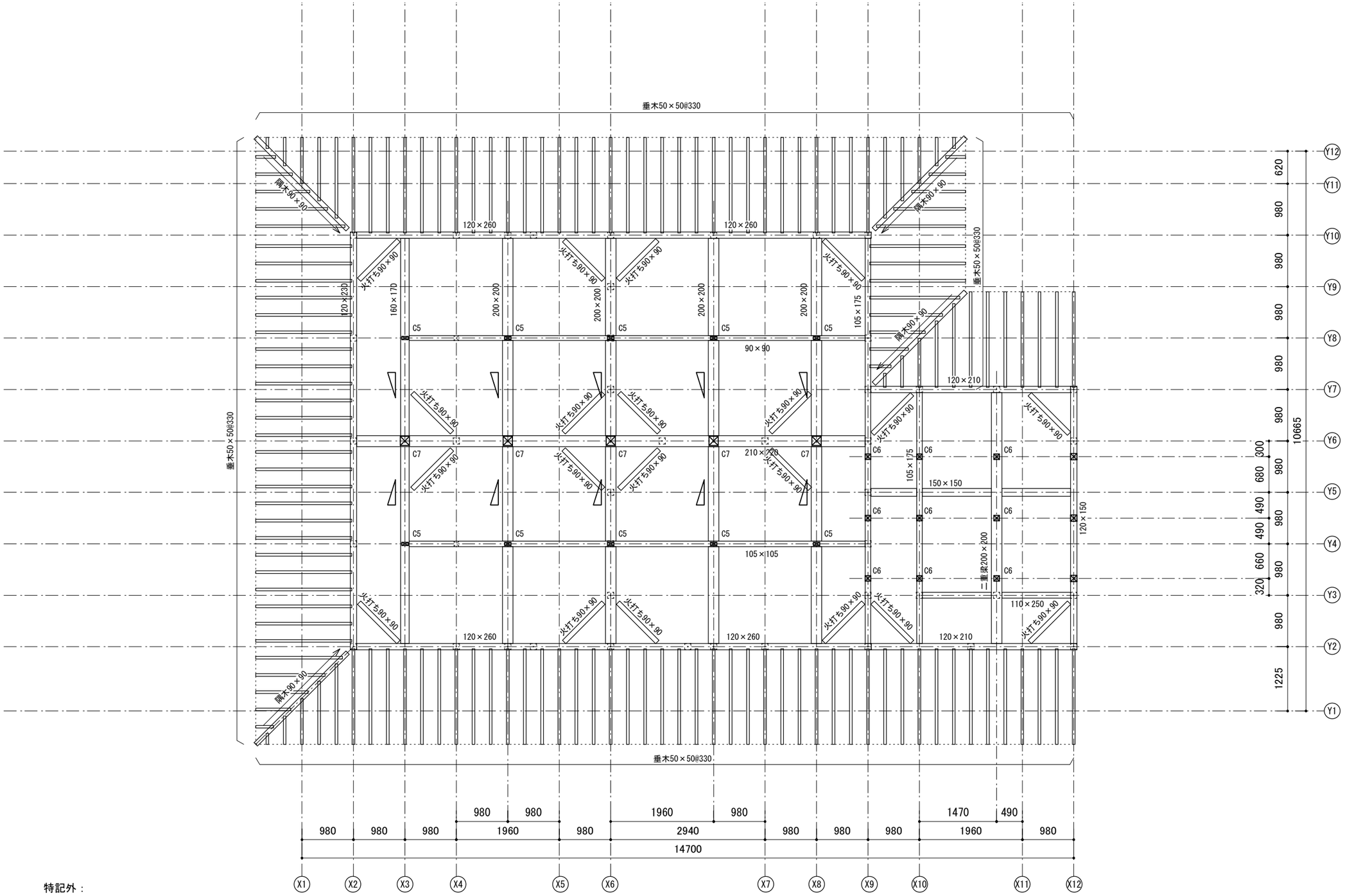
・吊り材64×64を示す

・横架材接合部　大入れ蟻掛け＋羽子板ボルト2個を用いて、4.5mm、40mm角の座金を介してナット締めしたものまたは同等品（15.9kN）

・水平構面は垂木部分とし、WS2とする

・「既存梁と既存梁」「既存梁と既存柱」は金物で固定する。基本的にZマーク金物として、使用する金物は設計者に確認すること。

特記	構造設計 岡田勇佑構造設計事務所 一級建築士　大臣登録　第366064号　岡田勇佑	SUO・Tetor共同企業体 一級建築士　大臣登録　第372122号　周防貴之	工事名称 奈義町アートの森整備工事（第一期）A棟	図面の名称 小屋伏図(1)	縮尺 1/75	日付 令和8年11月12日	No. S010



特記外：

・木柱　C2　　⊠

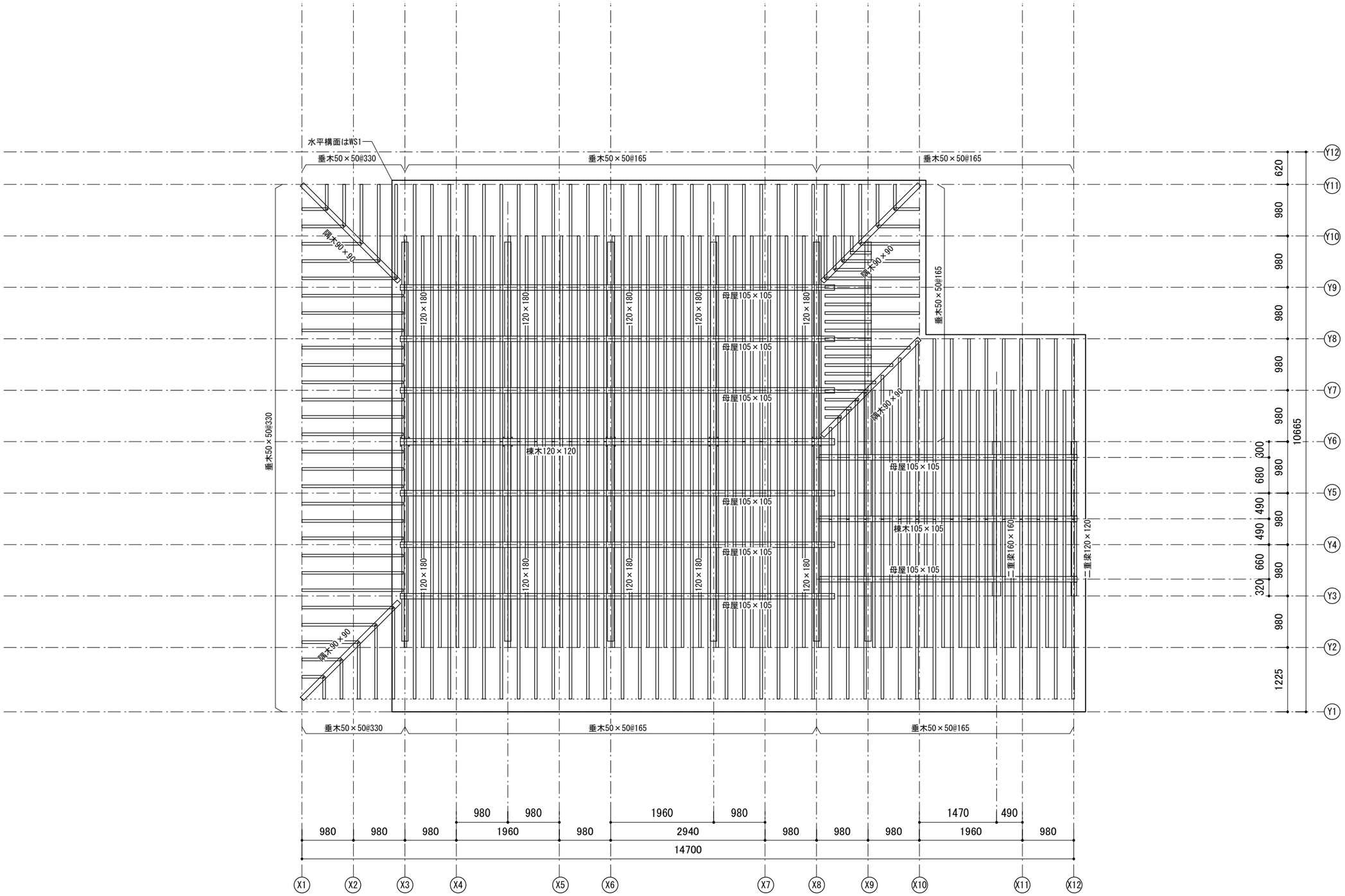
・トラス材120×60を示す

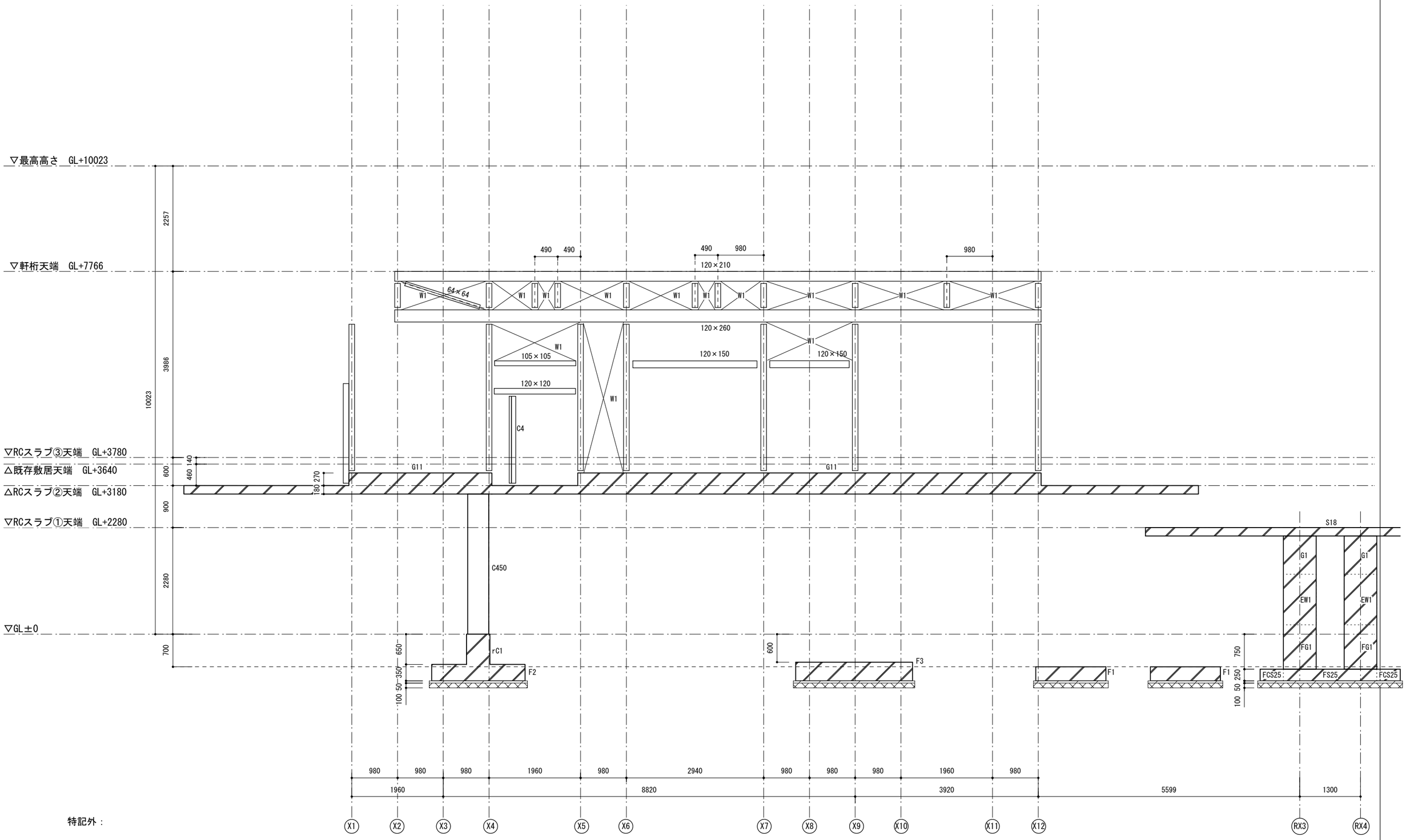
・横架材接合部　大入れ蟻掛け＋羽子板ボルト２個を用いて、4.5mm、40mm角の座金を介してナット締めしたものまたは同等品（15.9kN）

・水平構面は垂木部分とし、WS2とする

・「既存梁と既存梁」「既存梁と既存柱」は金物で固定する。基本的にZマーク金物として、使用する金物は設計者に確認すること。

特記	構造設計 岡田勇佑構造設計事務所 一級建築士　大臣登録　第366064号　岡田勇佑	SUO・Tetor共同企業体 一級建築士　大臣登録　第372122号　周防貴之	工事名称 奈義町アートの森整備工事（第一期）A棟	図面の名称 小屋伏図(2)	縮尺 1/75	日付 令和8年11月12日	No. S011


水平構面はWS1
垂木50×50@330
垂木50×50@165
垂木50×50@165
隅木90×90
隅木90×90
隅木90×90
隅木90×90
垂木50×50@330
垂木50×50@165
垂木50×50@165
120×180
母屋105×105
棟木120×120
棟木105×105
重梁160×160
重梁120×120
980
980
980

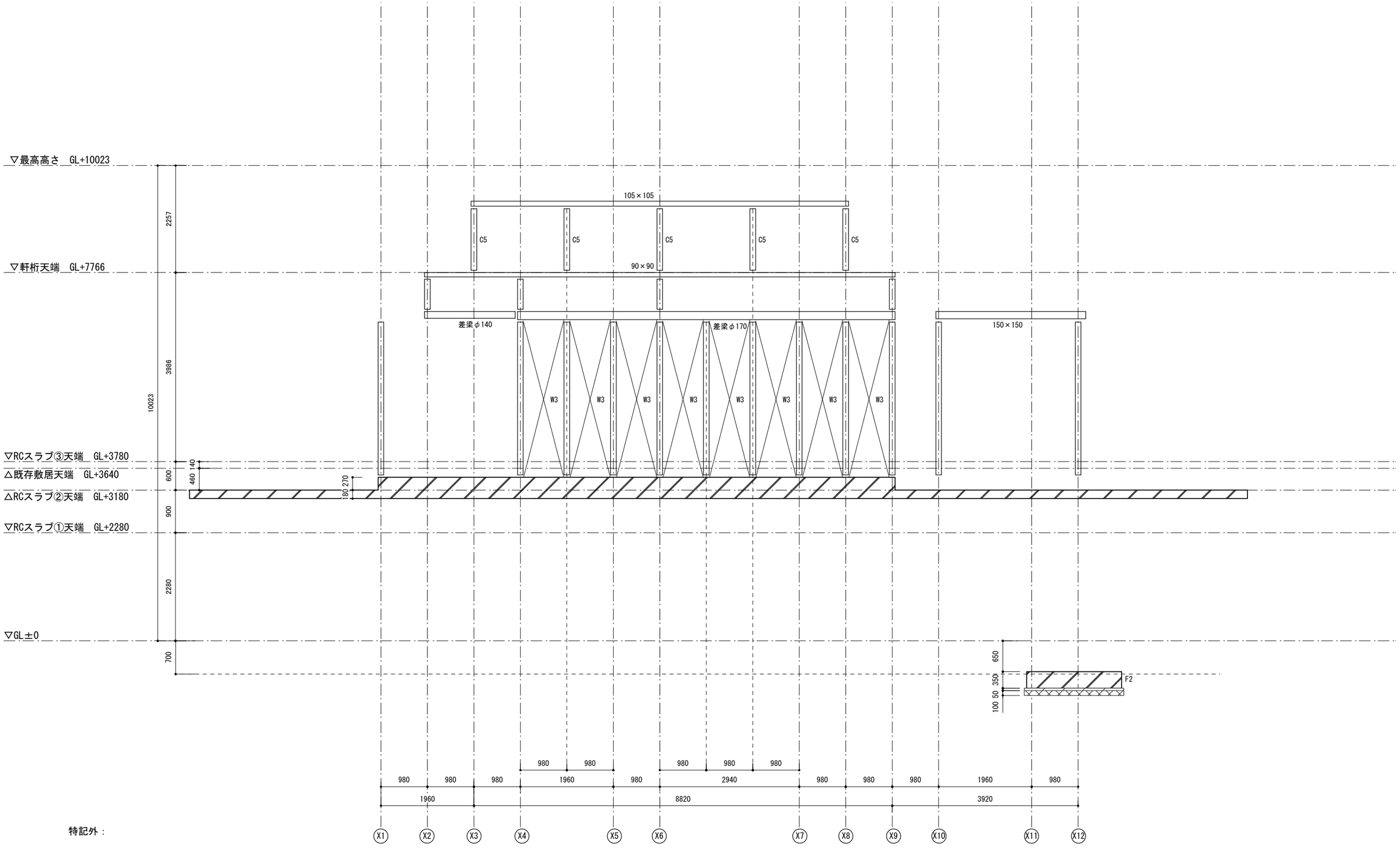


特記外：

・柱はC1とする

Y2通り

特記	構造設計 岡田勇佑構造設計事務所 一級建築士　大臣登録　第366064号　岡田勇佑	SUO・Tetor共同企業体 一級建築士　大臣登録　第372122号　周防貴之	工事名称 奈義町アートの森整備工事（第一期）A棟	図面の名称 Y2軸組図	縮尺 1/75	日付 令和8年11月12日	No. S013

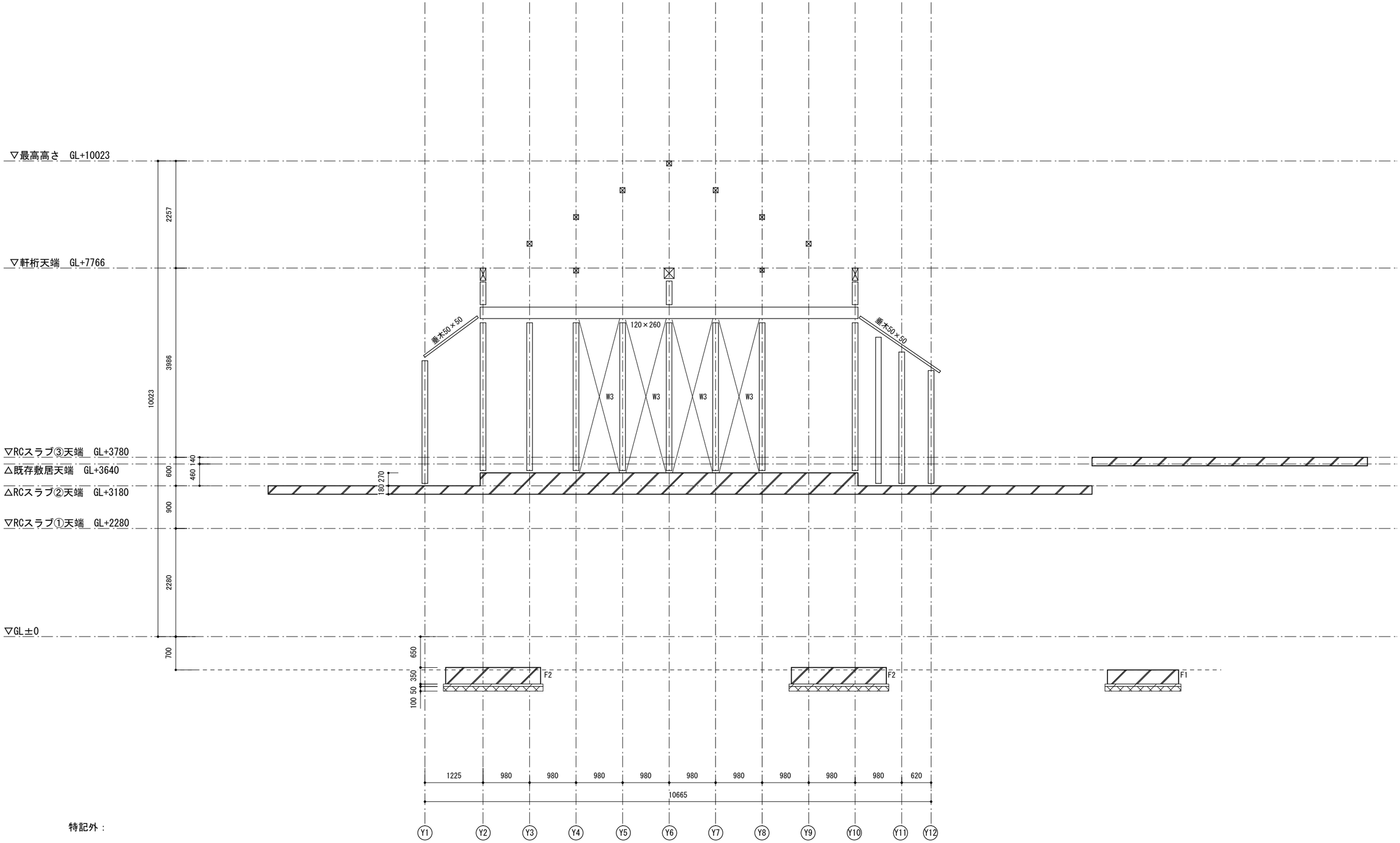


特記外：

・柱はC1とする

Y8通り

特記	構造設計 岡田勇佑構造設計事務所 一級建築士　大臣登録　第366064号　岡田勇佑	SUO・Tetor共同企業体 一級建築士　大臣登録　第372122号　周防貴之	工事名称 奈義町アートの森整備工事（第一期）A棟	図面の名称 Y8軸組図	縮尺 1/75	日付 令和8年11月12日	No. S014

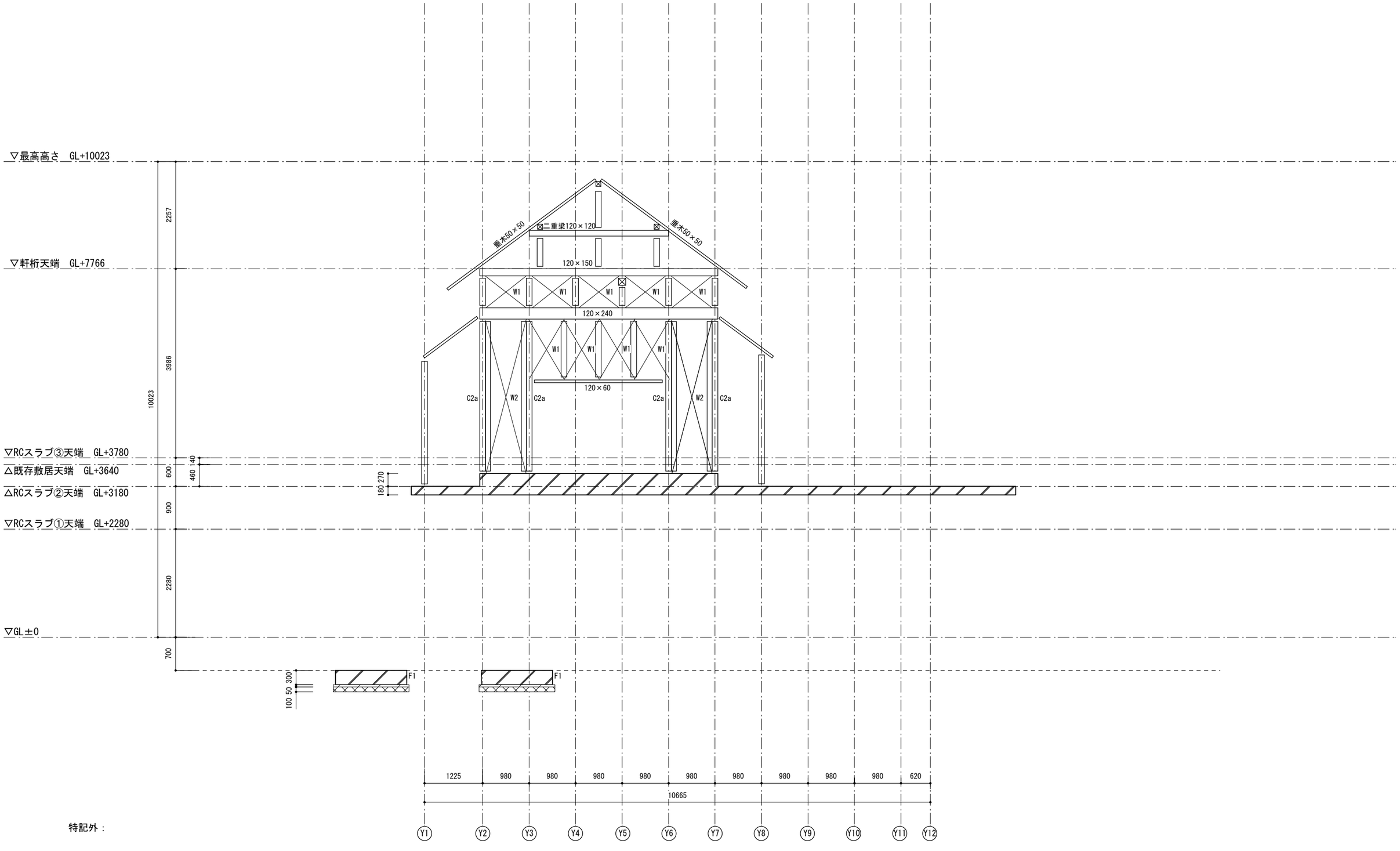


特記外：

・柱はC1とする

X4通り

特記	構造設計 岡田勇佑構造設計事務所 一級建築士　大臣登録　第366064号　岡田勇佑	SUO・Tetor共同企業体 一級建築士　大臣登録　第372122号　周防貴之	工事名称 奈義町アートの森整備工事（第一期）A棟	図面の名称 X4軸組図	縮尺 1/75	日付 令和8年11月12日	No. S015

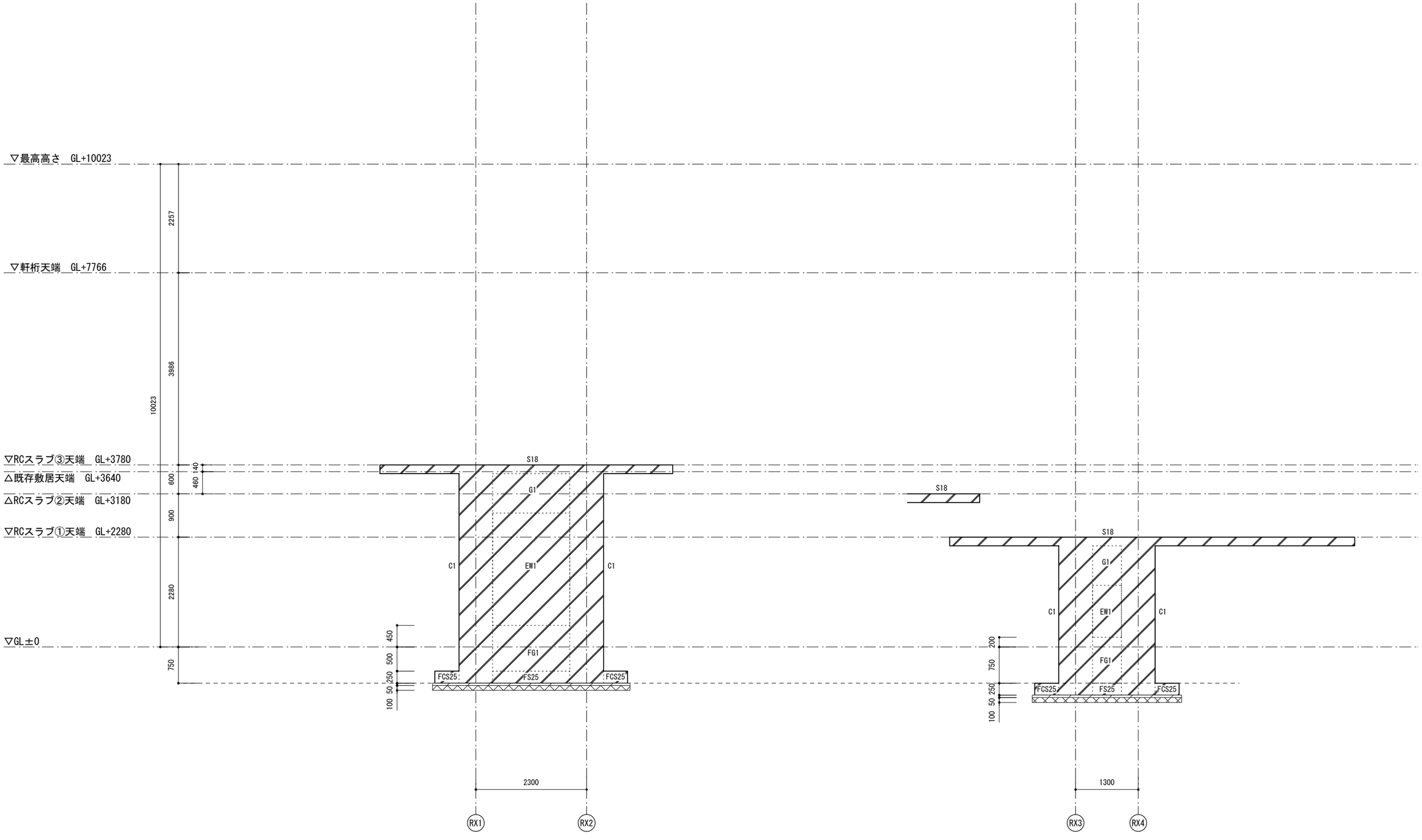


特記外：

・柱はC1とする

X12通り

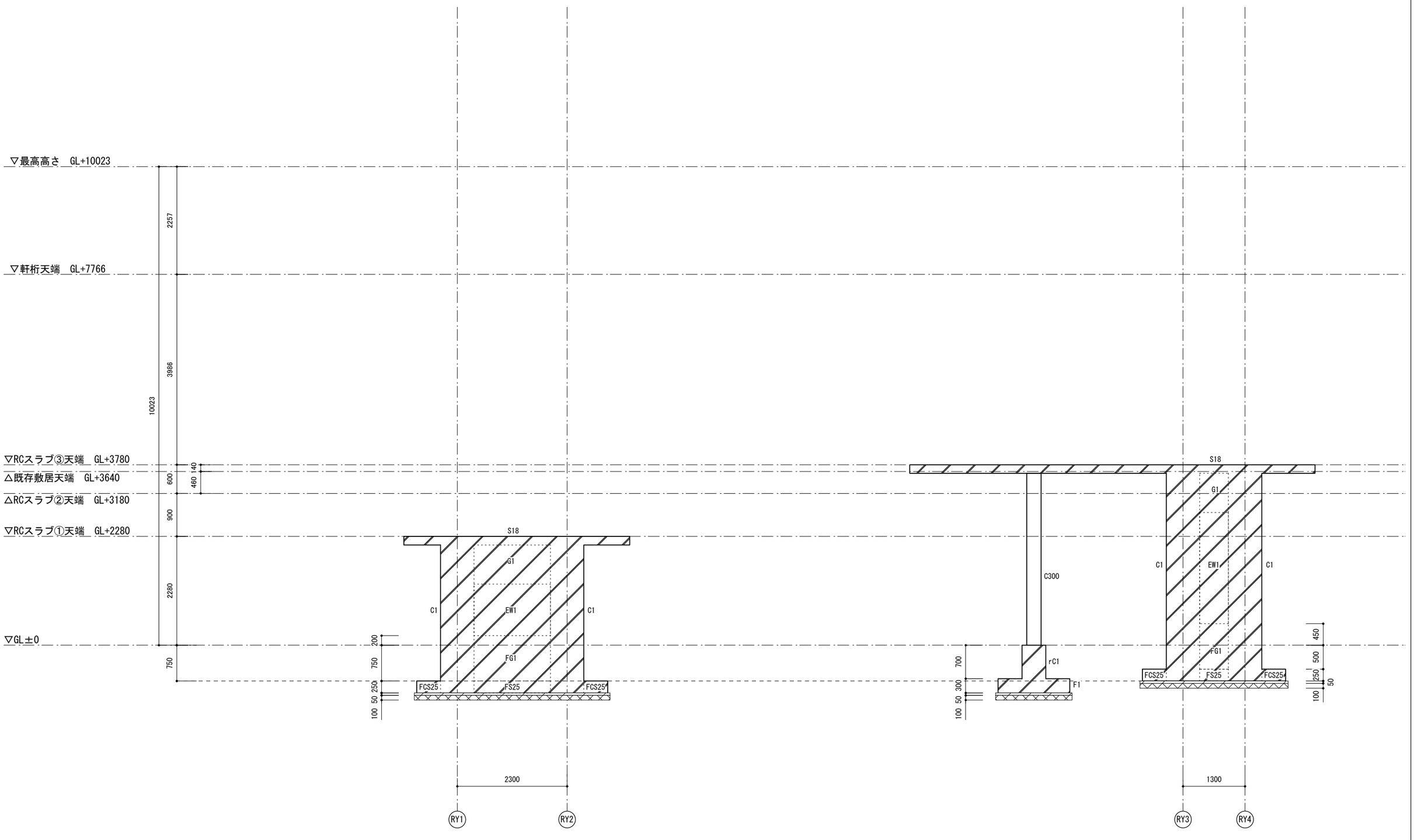
特記	構造設計 岡田勇佑構造設計事務所 一級建築士　大臣登録　第366064号　岡田勇佑	SUO・Tetor共同企業体 一級建築士　大臣登録　第372122号　周防貴之	工事名称 奈義町アートの森整備工事（第一期）A棟	図面の名称 X12軸組図	縮尺 1/75	日付 令和8年11月12日	No. S016



RY3通り

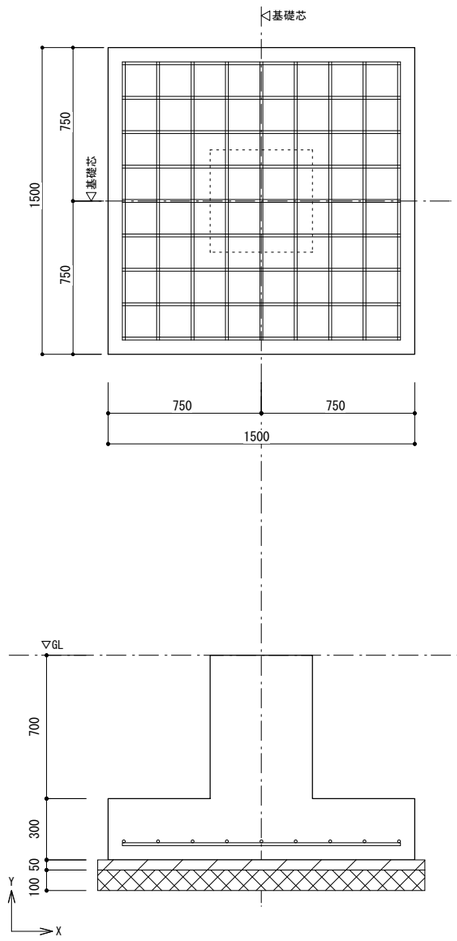
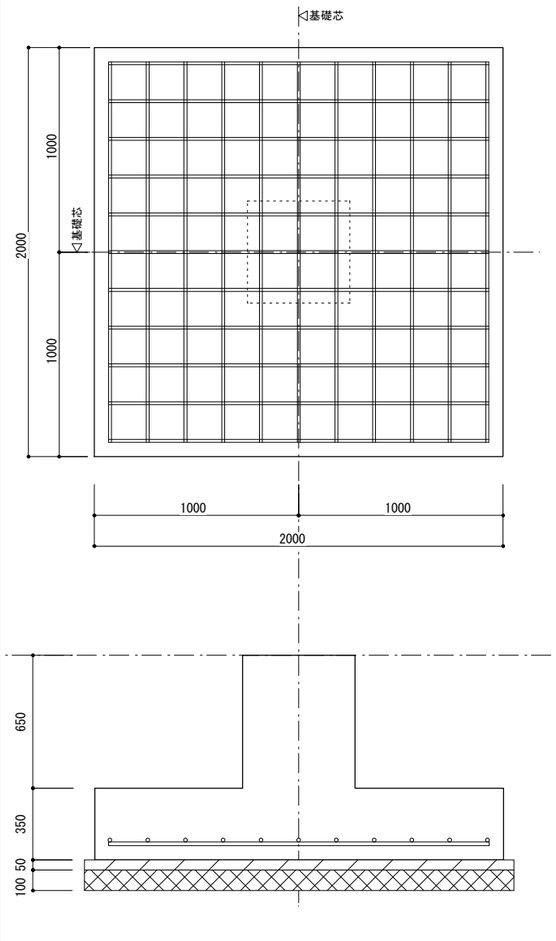
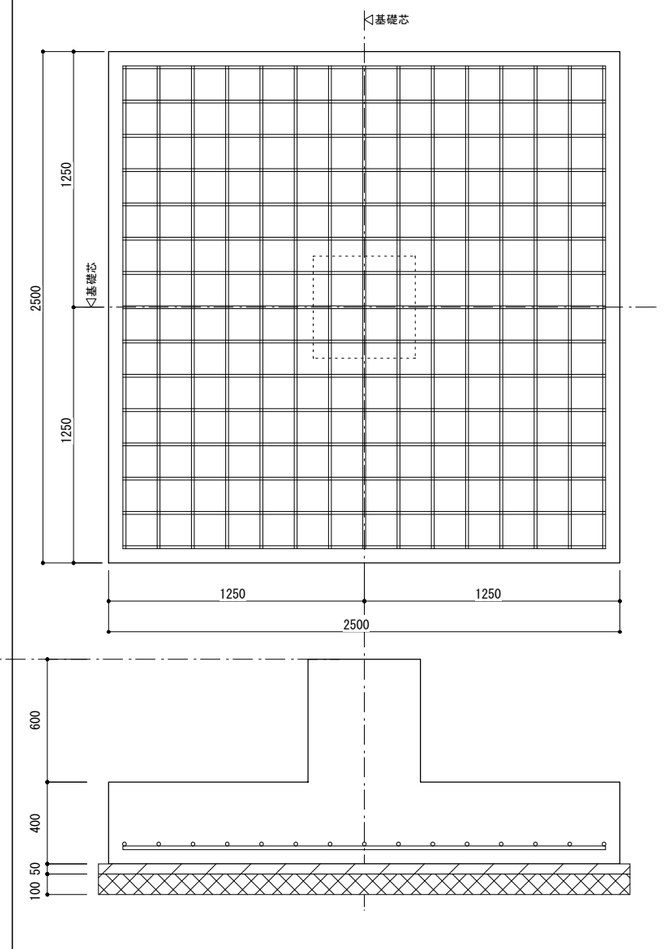
RY2通り

特記	構造設計 岡田勇佑構造設計事務所 一級建築士　大臣登録　第366064号　岡田勇佑	SUO・Tetor共同企業体 一級建築士　大臣登録　第372122号　周防貴之	工事名称 奈義町アートの森整備工事（第一期）A棟	図面の名称 RY1軸組図	縮尺 1/75	日付 令和8年11月12日	No. S017

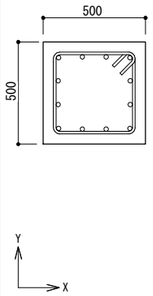


特記	構造設計 岡田勇佑構造設計事務所 一級建築士　大臣登録　第366064号　岡田勇佑	SUO・Tetor共同企業体 一級建築士　大臣登録　第372122号　周防貴之	工事名称 奈義町アートの森整備工事（第一期）A棟	図面の名称 RX1軸組図	縮尺 1/75	日付 令和8年11月12日	No. S018

・基礎配筋リスト

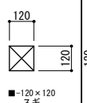
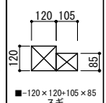
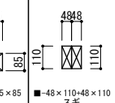
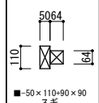
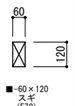
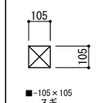
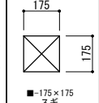
符　号	F1	F2	F3
位　置	平断面	平断面	平断面
断　面			
b×h	1,500×1,500	2,000×2,000	2,500×2,500
X方向主筋	9-D13	11-D16	15-D16
Y方向主筋	9-D13	11-D16	15-D16

・RC基礎柱配筋リスト

符　号	rC1	
位　置	全断面	
断　面		
b×h	500×500	
主筋	12-D16	
X方向主筋	4-D16	
Y方向主筋	4-D16	
HOOP	2-D13@200(X方向)	2-D13@200(Y方向)

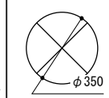
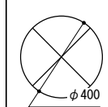
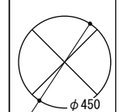
特記	構造設計 岡田勇佑構造設計事務所 一級建築士　大臣登録　第366064号　岡田勇佑	SUO・Tetor共同企業体 一級建築士　大臣登録　第372122号　周防貴之	工事名称 奈義町アートの森整備工事(第一期) A棟	図面の名称 基礎リスト	縮尺 1/30	日付 令和8年11月12日	No. S019

・木柱部材リスト

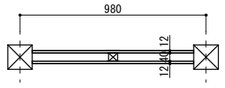
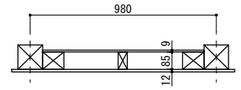
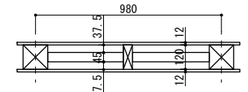
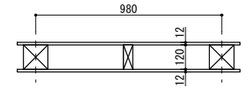
符　号	C2	C2a	C3	C4	C5(東)	C6（東）	C7（東）
位　置	平断面	平断面	平断面	平断面	平断面	平断面	平断面
断　面							
	■-120×120 スギ (E50)	■-120×120+105×85 スギ (E50)	■-48×110+48×110 スギ (無等級,E50)	■-50×110+90×90 スギ (無等級,E50)	■-60×120 スギ (E70)	■-105×105 スギ (無等級,E50)	■-175×175 スギ (無等級,E50)

柱のホゾは30*90以下とする

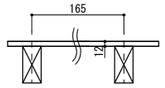
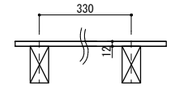
・木柱部材リスト

符　号	C200	C250	C300	C350	C400	C450
位　置	平断面	平断面	平断面	平断面	平断面	平断面
断　面						
	φ-200 集成材 (E120-F330)	φ-250 集成材 (E120-F330)	φ-300 集成材 (E120-F330)	φ-350 集成材 (E120-F330)	φ-400 集成材 (E120-F330)	φ-450 集成材 (E120-F330)

・耐力壁部材リスト

符号	W1	W2	W3	W4
位置	平断面	平断面	平断面	平断面
断面				
	・2級構造用合板t12 両面貼り ・外周CN50@75、中通りCN50@150 ・間柱:■-40x45@490以内とする ・壁倍率6.6倍	・2級構造用合板t9、t12 両面貼り ・外周CN50@75、中通りCN50@150 ・間柱:■-85x45@490以内とする ・壁倍率7.0倍	・2級構造用合板t12 両面貼り+たすき掛け筋かい ・外周CN50@75、中通りCN50@150 ・間柱:■-120x45@490以内とする ・筋交いは45x90とする ・壁倍率7.0倍 ・受け材は120*60とする	・2級構造用合板t12 両面貼り ・外周CN50@75、中通りCN50@150 ・間柱:■-120x45@490以内とする ・壁倍率7.0倍

・床版 屋根版

符号	床版WS1	床版WS2
断面		
厚さ	t=12mm	t=12mm
備考	・樹種:針葉樹2級構造用合板 ・面材の割付はイモ貼り ・面材と垂木の接合　N75@150 ・垂木と屋根組の接合　BX高耐力たる木ビス　KTB-130 ・短期許容せん断耐力　3.96kN/m ・合板と梁上接合部は、構造用接着剤を使用すること。 ・軒先はBX高耐力たる木ビス芯から25mm以上確保すること	・樹種:針葉樹2級構造用合板 ・面材の割付はイモ貼り ・面材と垂木の接合　N75@150 ・垂木と屋根組の接合　BX高耐力たる木ビス　KTB-130 ・短期許容せん断耐力　2.61kN/m ・合板と梁上接合部は、構造用接着剤を使用すること。 ・軒先はBX高耐力たる木ビス芯から25mm以上確保すること

・木梁部材リスト

符　号	50×50	90×85	90×90	100×100	105×105	105×175	105×250	115×115	115×200	115×350	120×85	120×110	120×120	120×150	120×180	120×230	120×240	120×250	120×260	120×270	150×150	160×160	160×170	170×150	200×200	200×300	210×220
位　置	平断面	平断面 (土台含む)	平断面	平断面	平断面	平断面	平断面	平断面	平断面	平断面	平断面 (土台含む)	平断面 (土台含む)	平断面 (土台含む)	平断面	平断面 (土台含む)	平断面 (土台含む)	平断面	平断面	平断面	平断面	平断面	平断面	平断面	平断面	平断面	平断面	平断面
断　面																											
	■-50×50 スギ (無等級,E50)	■-90×85 スギ (無等級,E50)	■-90×90 スギ (無等級,E50)	■-100×100 スギ (無等級,E50)	■-105×105 スギ (無等級,E50)	■-105×175 スギ (無等級,E50)	■-105×250 スギ (無等級,E50)	■-115×115 スギ (無等級,E50)	■-115×200 スギ (無等級,E50)	■-115×350 スギ (無等級,E50)	■-120×85 スギ (無等級,E50)	■-120×110 スギ (無等級,E50)	■-120×120 スギ (無等級,E50)	■-120×150 スギ (無等級,E50)	■-120×180 スギ (無等級,E50)	■-120×230 スギ (無等級,E50)	■-120×240 スギ (無等級,E50)	■-120×250 スギ (無等級,E50)	■-120×260 スギ (無等級,E50)	■-120×270 スギ (無等級,E50)	■-150×150 スギ (無等級,E50)	■-160×160 スギ (無等級,E50)	■-160×170 スギ (無等級,E50)	■-170×150 スギ (無等級,E50)	■-200×200 スギ (無等級,E50)	■-200×300 スギ (無等級,E50)	■-210×220 スギ (無等級,E50)

・木梁部材リスト

符　号	φ140	φ170	φ230
位　置	平断面	平断面	平断面
断　面			
	φ140 スギ (無等級,E50)	φ170 スギ (無等級,E50)	φ230 スギ (無等級,E50)

・木柱-RCスラブ接合部詳細図(一般部)

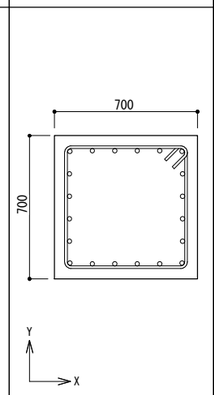
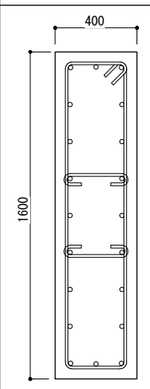
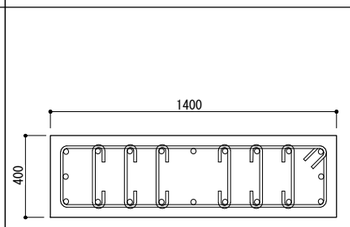
・木柱-RCスラブ接合部詳細図(独立屋根部)

共通事項

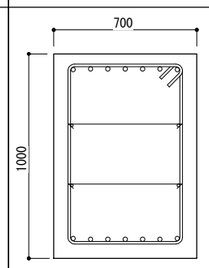
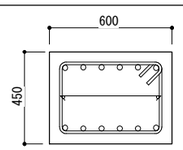
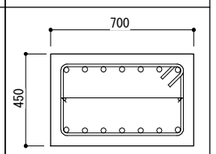
・Zマーク金物、又は同等品の金物を使用すること。
・金物は柱頭・柱脚とも同じものを使用すること。
・土台と基礎立ち上がりはA.Bolt 1-M12 @1820以内で固定。
・接着剤は床根太きしみ防止用をローラーにて塗布すること。
（コニシのKU928C：F☆☆☆☆同等品）
・耐力壁に使用する構造用合板で屋外に面するものは特類を使用すること。
・土台用のアンカーボルトは、M12埋め込み長さL=240以上とすること
・ホールダウンアンカーボルトは、M16埋め込み長さL=500以上とすること

特記	構造設計 岡田勇佑構造設計事務所 一級建築士　大臣登録　第366064号　岡田勇佑	SUO・Tetor共同企業体 一級建築士　大臣登録　第372122号　周防貴之	工事名称 奈義町アートの森整備工事(第一期) A棟	図面の名称 部材リスト(1)	縮尺 1/30	日付 令和8年11月12日	No. S020

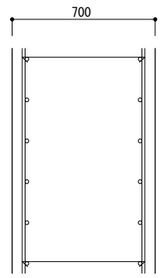
・RC柱配筋リスト

符号	C1		C11		C12	
位置	全断面		全断面		全断面	
断面						
b×h	700×700		400×1,600		1,400×400	
主筋	20-D19		20-D19		20-D19	
X方向主筋	6-D19		9-D19		3-D19	
Y方向主筋	6-D19		3-D19		9-D19	
HOOP	2-D13@100(X方向)	2-D13@100(Y方向)	4-D13@100(X方向)	2-D13@100(Y方向)	2-D13@100(X方向)	8-D13@100(Y方向)

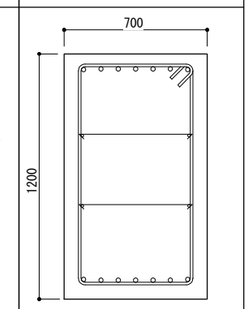
・RC梁配筋リスト

符号	G1	G11	G12
位置	全断面	全断面	全断面
断面			
b×h	700×1,000	600×450	700×450
上端筋	7-D19	6-D22	7-D22
下端筋	7-D19	6-D22	7-D22
STRP	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@100
腹筋	4-D13	2-D13	2-D13

・壁配筋リスト

符号	EW1
位置	平断面
断面	
厚さ	t=700
縦筋	D16@200W
横筋	D16@200W

・基礎梁配筋リスト

符号	FG1
位置	全断面
断面	
b×h	700×1,200
上端筋	7-D19
下端筋	7-D19
STRP	□-D13@150
腹筋	4-D13

・スラブ配筋リスト

符号	厚さ	位置		主筋方向	配力筋方向	備考
S18	180	全断面	上端筋	D13@100W	D13@100W	
			下端筋	D13@100W	D13@100W	
S18A	180	全断面	上端筋	D16@100W	D16@100W	
			下端筋	D13@100W	D13@100W	
S18B	180	全断面	上端筋	D19@100W	D19@100W	
			下端筋	D13@100W	D13@100W	

・耐圧版配筋リスト

符号	厚さ	位置	主筋方向	配力筋方向	備考
FS25	250	全断面	D16@200W	D16@200W	・捨てコン t=50,砕石 t=100
FCS25	250	全断面	D16@200W	D16@200W	・捨てコン t=50,砕石 t=100

・土間コン配筋リスト

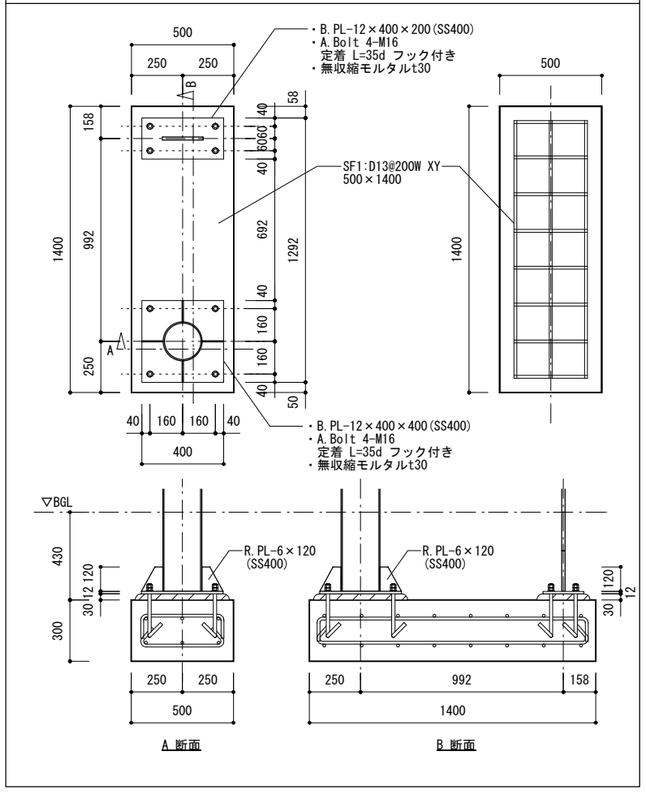
符号	厚さ	位置	主筋方向	配力筋方向	備考
DS15	150	全断面	D10@200S	D10@200S	

・鉄骨部材リスト

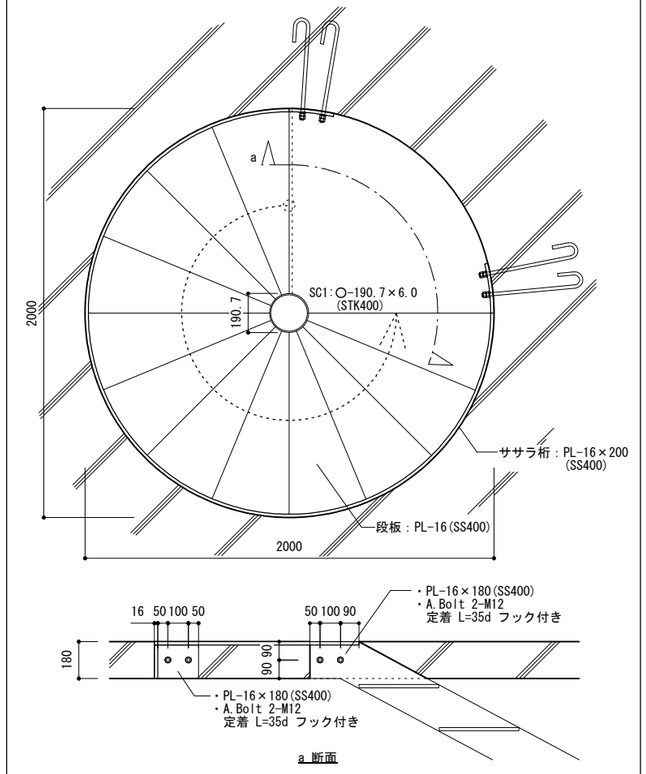
符号	部材断面	鋼材種	備考
SC1	○-190.7×6.0	STK400	
ササラ桁	PL-16×200	SS400	
段板	PL-16	SS400	

・柱脚リスト

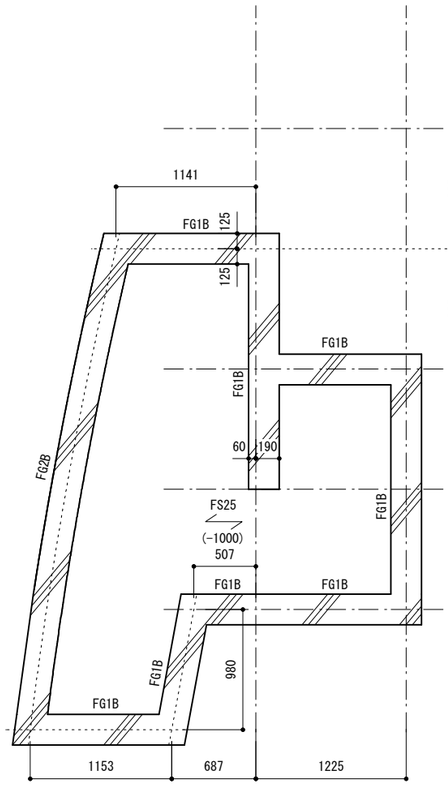
SC1柱脚,SF1



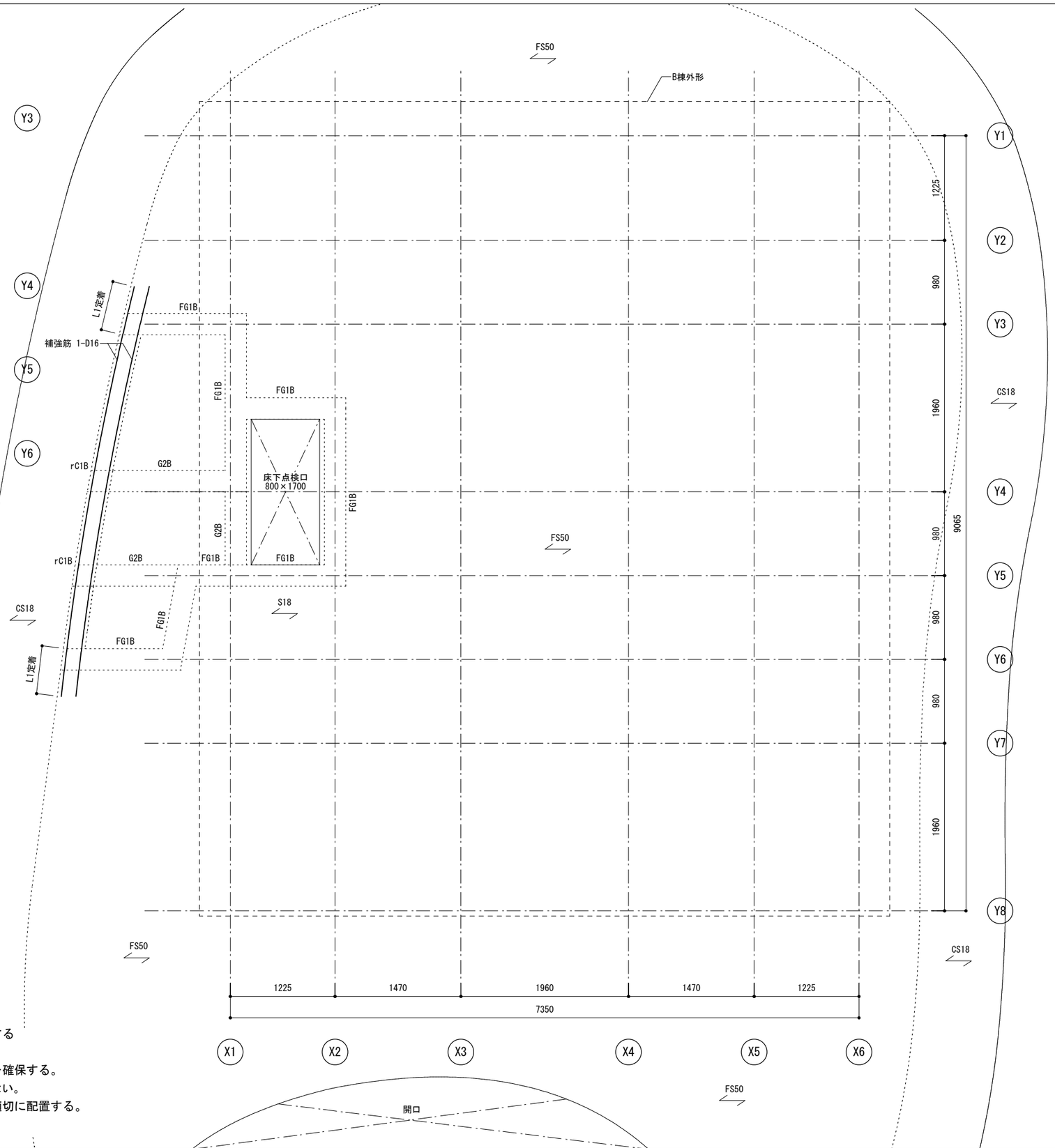
・階段接合部詳細図



特記	構造設計 岡田勇佑構造設計事務所 一級建築士 大臣登録 第366064号 岡田勇佑	SUO・Tetor共同企業体 一級建築士 大臣登録 第372122号 周防貴之	工事名称 奈義町アートの森整備工事(第一期) A棟	図面の名称 部材リスト(2)	縮尺 1/30	日付 令和8年11月12日	No. S021



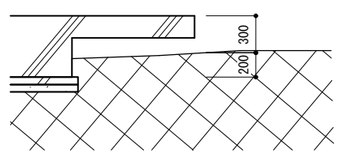
ピット伏図



基準レベル
基礎天端レベル=BGL±0
( )内数値は基準レベルとの差を示す

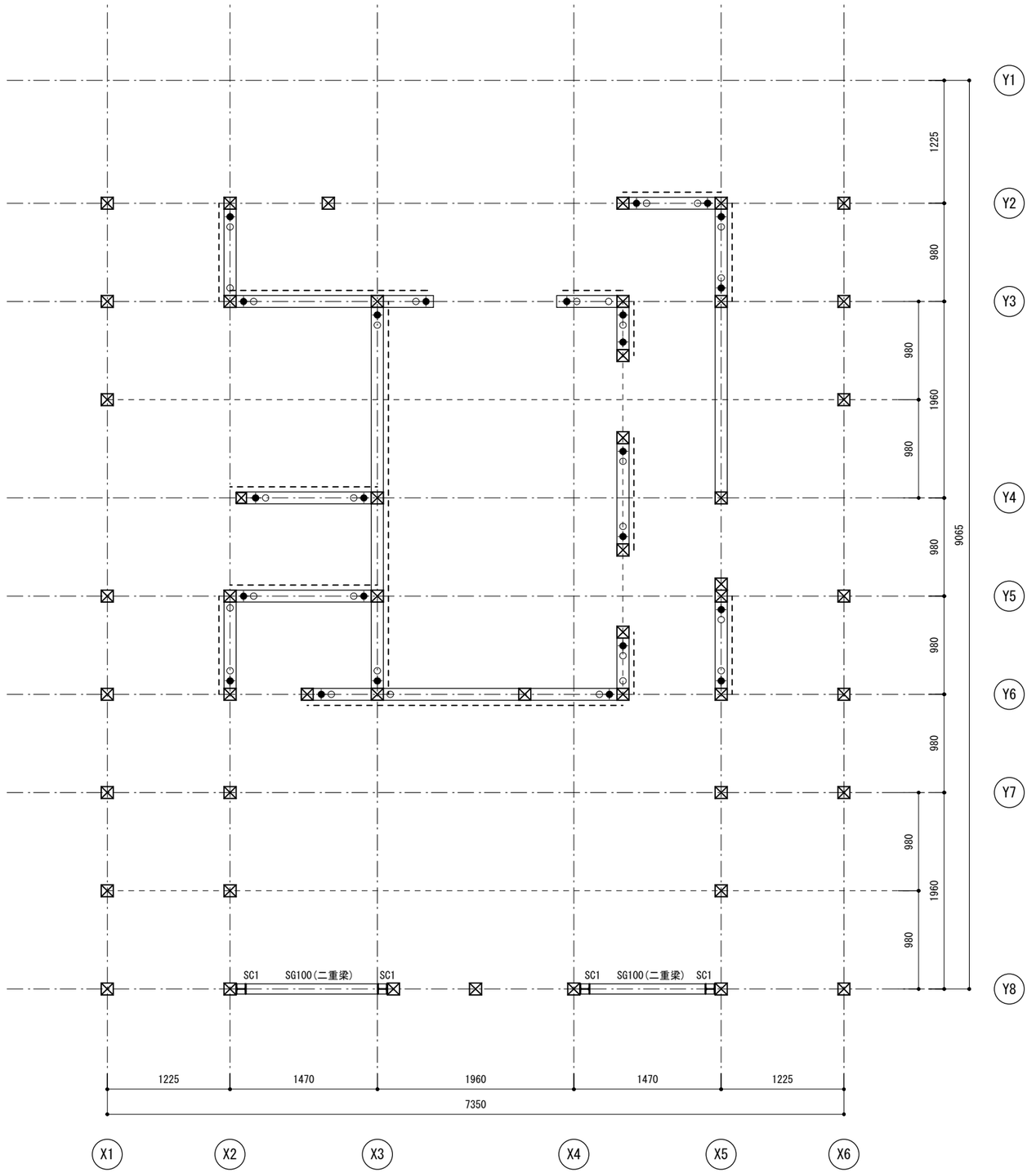
特記外
主筋方向：

・基礎は、建物直下を全面的に鉄筋コンクリートで一体打設する
マットスラブ形式のべた基礎として計画する。
立上り高さは地盤面より300㎜以上、底盤厚さは120㎜以上を確保する。
また、根入れ深さは120㎜以上を確保し、凍結深度の指定はない。
基礎の配筋については、主筋および補強筋、底盤補強筋を適切に配置する。
基礎と土台はアンカーボルトを使用して固定する。



基礎断面図

特記	構造設計 岡田勇佑構造設計事務所 一級建築士 大臣登録 第366064号 岡田勇佑	SUO・Tetor共同企業体 一級建築士 大臣登録 第372122号 周防貴之	工事名称 奈義町アートの森整備工事（第一期）B棟	図面の名称 基礎伏図	縮尺 1/50	日付 令和8年11月12日	No. SB01

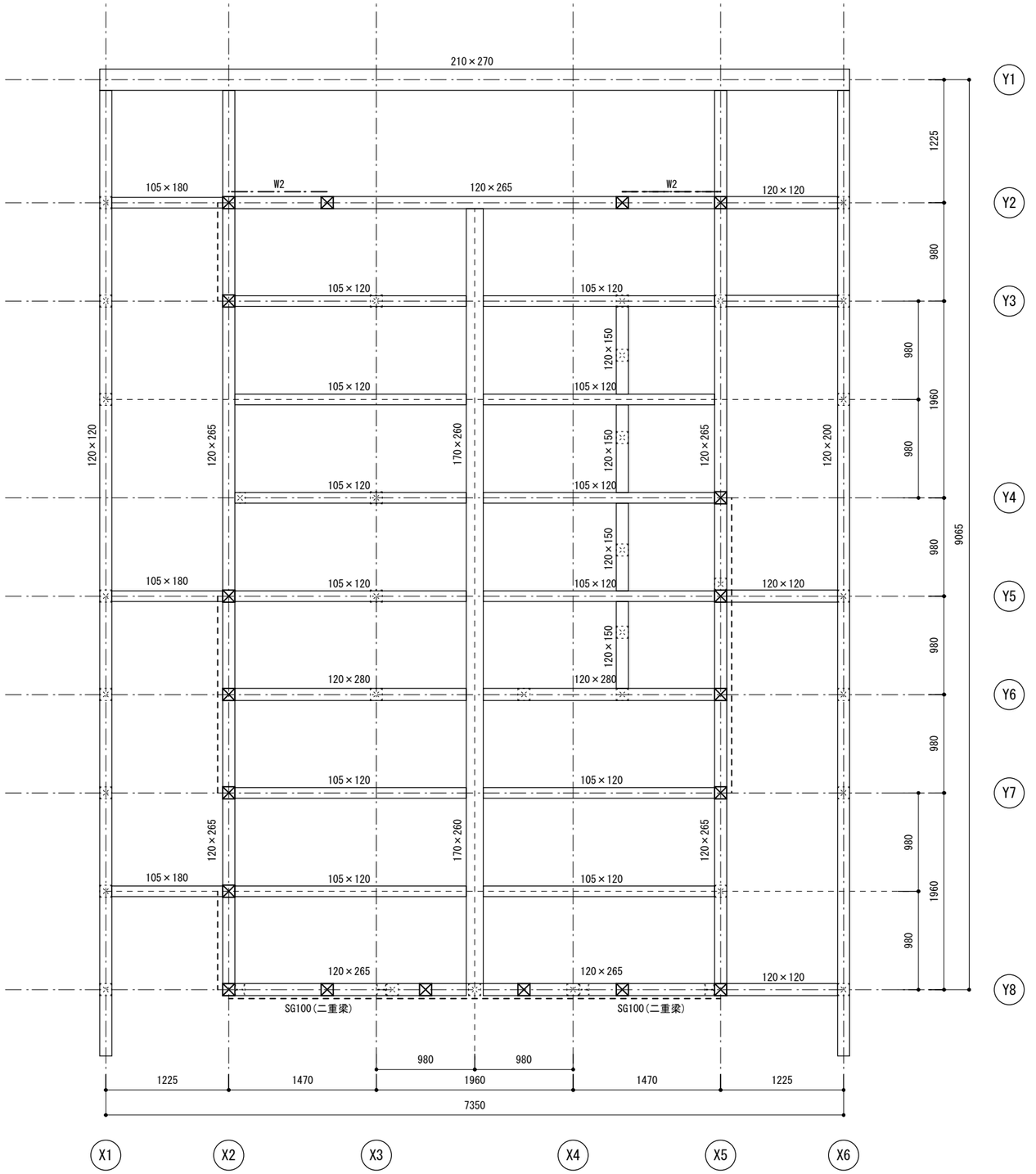


基準レベル
土台天端レベル=BGL+120

特記外
柱:C1
土台120:
耐力壁W1:
土台A.Bolt.M12
HD A.Bolt.M16

柱頭柱脚金物
耐力壁端部柱：ビス止めホールダウンU25(タナカ)
その他柱：スモールコーナーII(タナカ)
独立柱:SSLOCK柱脚金物(BXカネシン)(立ち上がり部をコンクリートへ埋め込み)
上記同等性能品に変更可
・「既存梁と既存梁」「既存梁と既存柱」は金物で固定する。
基本的にZマーク金物として、使用する金物は設計者に確認すること。

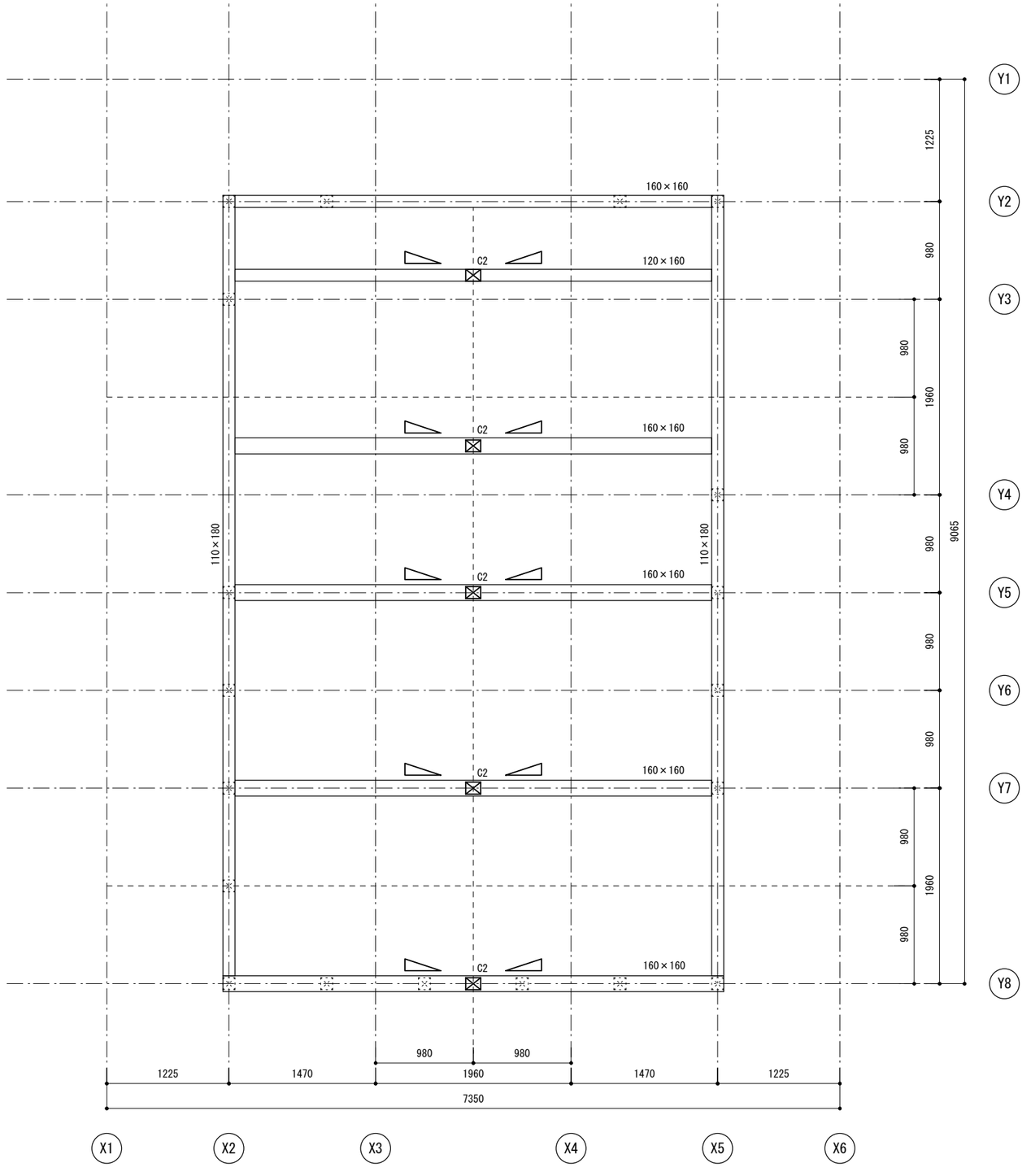
特記	構造設計 岡田勇佑構造設計事務所 一級建築士 大臣登録 第366064号 岡田勇佑	SUO・Tetor共同企業体 一級建築士 大臣登録 第372122号 周防貴之	工事名称 奈義町アートの森整備工事(第一期) B棟	図面の名称 土台伏図	縮尺 1/50	日付 令和8年11月12日	No. SB02



基準レベル
2F梁天端レベル=BGL+2680

特記外
柱:C1　⊠
耐力壁W1:------
耐力壁W2: —·—·
・「既存梁と既存梁」「既存梁と既存柱」は金物で固定する。
　基本的にZマーク金物として、使用する金物は設計者に確認すること。

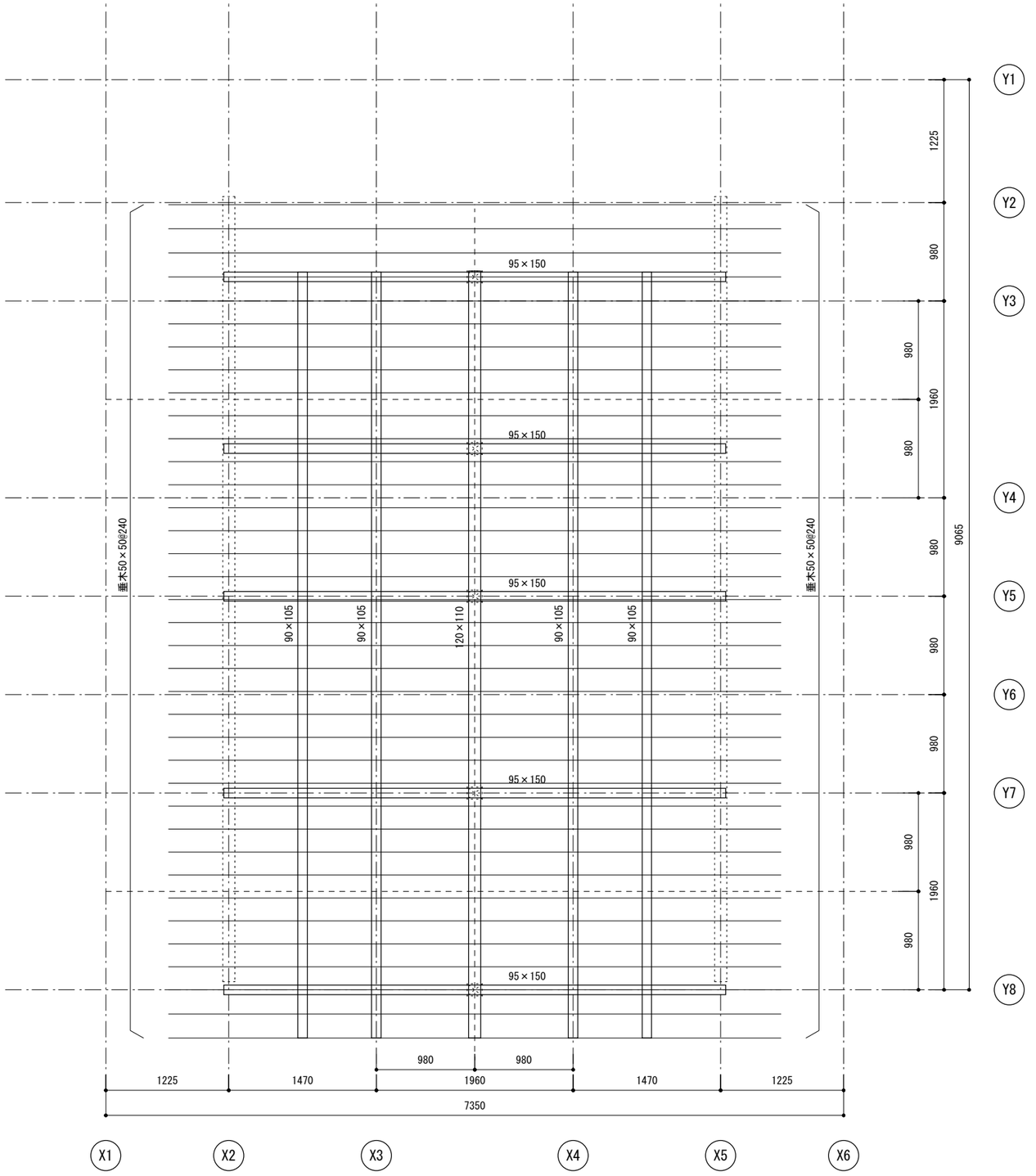
特記	構造設計 岡田勇佑構造設計事務所 一級建築士 大臣登録 第366064号 岡田勇佑	SUO・Tetor共同企業体 一級建築士 大臣登録 第372122号 周防貴之	工事名称 奈義町アートの森整備工事(第一期) B棟	図面の名称 2階伏図	縮尺 1/50	日付 令和8年11月12日	No. SB03



基準レベル
軒桁天端レベル=BGL+5127

特記外
トラス材:90×95
・「既存梁と既存梁」「既存梁と既存柱」は金物で固定する。
　基本的にZマーク金物として、使用する金物は設計者に確認すること。

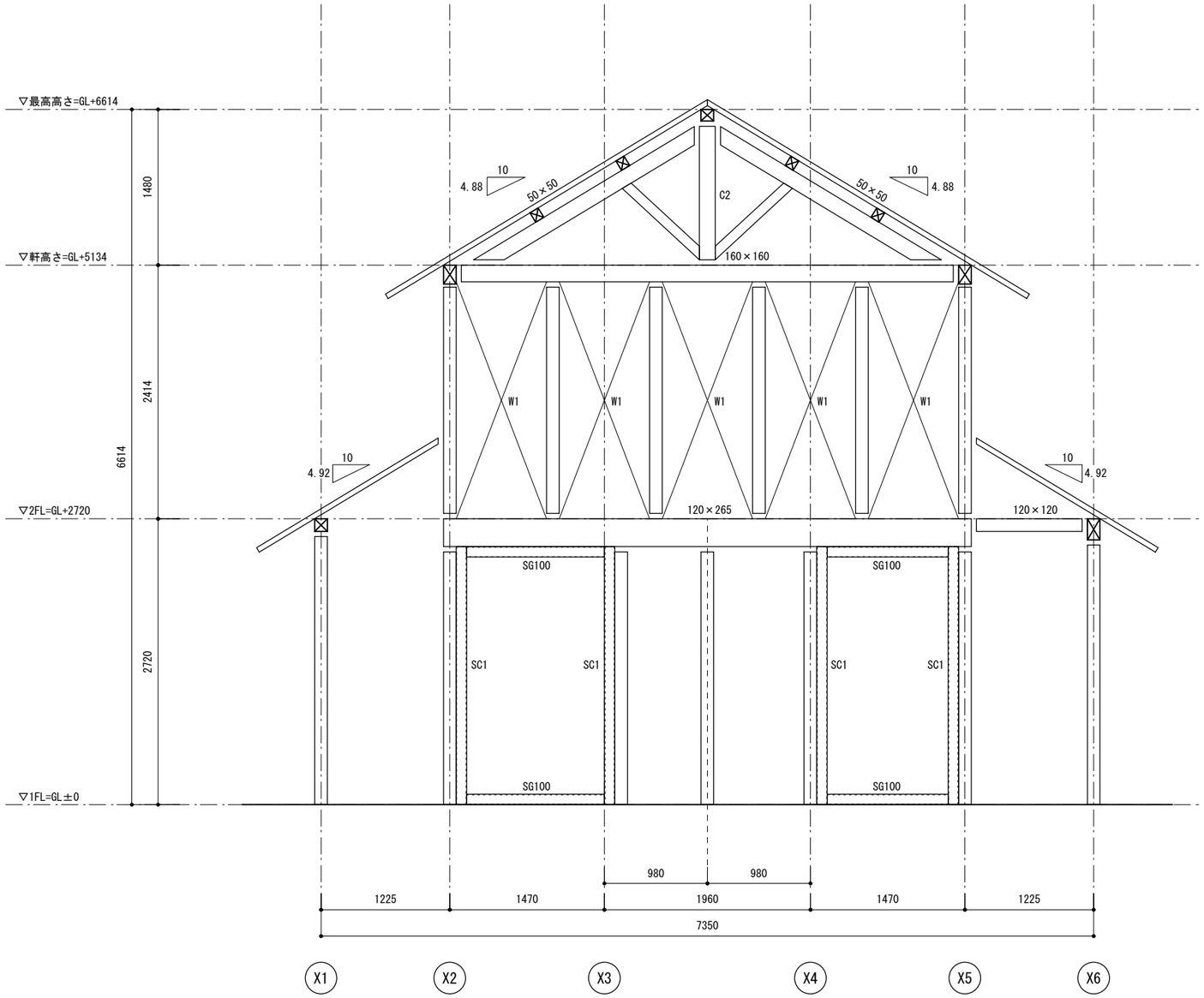
特記	構造設計 岡田勇佑構造設計事務所 一級建築士 大臣登録 第366064号 岡田勇佑	SUO・Tetor共同企業体 一級建築士 大臣登録 第372122号 周防貴之	工事名称 奈義町アートの森整備工事(第一期) B棟	図面の名称 小屋伏図	縮尺 1/50	日付 令和8年11月12日	No. SB04



基準レベル
最高高さ=BGL+6614

特記外
・「既存梁と既存梁」「既存梁と既存柱」は金物で固定する。
　基本的にZマーク金物として、使用する金物は設計者に確認すること。

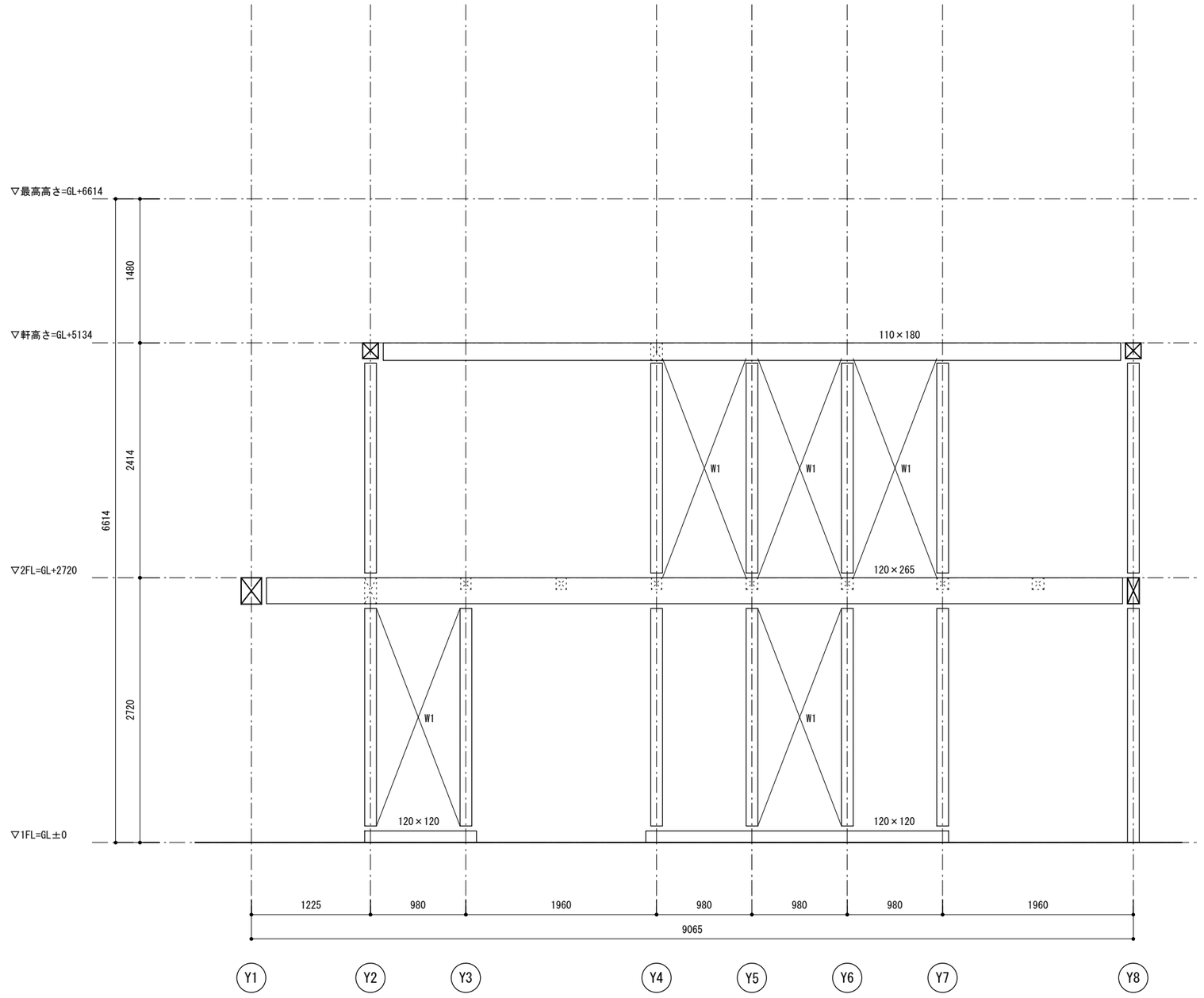
特記	構造設計 岡田勇佑構造設計事務所 一級建築士　大臣登録　第366064号　岡田勇佑	SUO・Tetor共同企業体 一級建築士　大臣登録　第372122号　周防貴之	工事名称 奈義町アートの森整備工事（第一期）B棟	図面の名称 屋根伏図	縮尺 1/50	日付 令和8年11月12日	No. SB05



Y8通り軸組図

特記外
柱はC1とする

特記	構造設計 岡田勇佑構造設計事務所 一級建築士 大臣登録 第366064号 岡田勇佑	SUO・Tetor共同企業体 一級建築士 大臣登録 第372122号 周防貴之	工事名称 奈義町アートの森整備工事(第一期) B棟	図面の名称 軸組図	縮尺 1/50	日付 令和8年11月12日	No. SB06

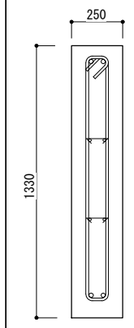
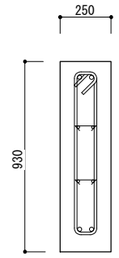


X5通り軸組図

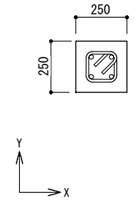
特記外
柱はC1とする

特記	構造設計 岡田勇佑構造設計事務所 一級建築士 大臣登録 第366064号 岡田勇佑	SUO・Tetor共同企業体 一級建築士 大臣登録 第372122号 周防貴之	工事名称 奈義町アートの森整備工事(第一期) B棟	図面の名称 軸組図(2)	縮尺 1/30	日付 令和8年11月12日	No. SB07

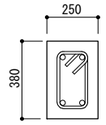
・基礎梁配筋リスト

符　号	FG1B	FG2B
位　置	全断面	全断面
断　面		
b×h	250×1,330	250×930
上端筋	2-D16	2-D16
下端筋	2-D16	2-D16
STRP	□-D10@200	□-D10@200
腹　筋	4-D10	4-D10

・RC基礎柱配筋リスト

符　号	rC1B	
位　置	全断面	
断　面		
b×h	250×250	
主筋	4-D16	
X方向主筋	2-D16	
Y方向主筋	2-D16	
HOOP	2-D13@200(X方向)	2-D13@200(Y方向)

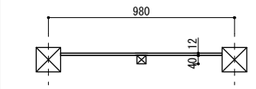
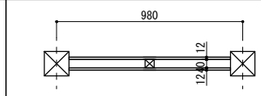
・RC梁配筋リスト

符　号	G2B
位　置	全断面
断　面	
b×h	250×380
上端筋	2-D16
下端筋	2-D16
STRP	□-D13@150
腹　筋	-

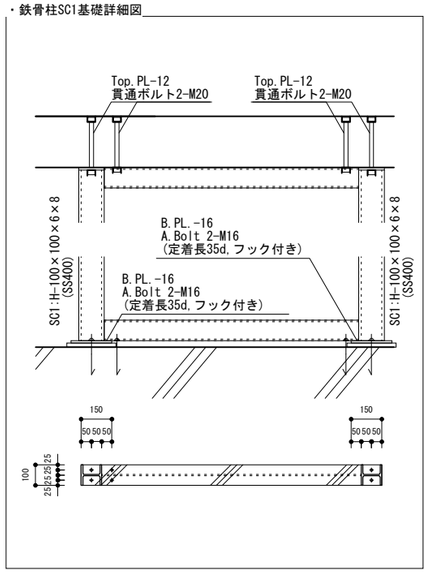
・木柱部材リスト

符　号	C1	C2
位　置	平断面	平断面
断　面		

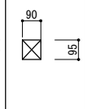
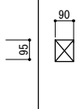
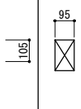
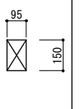
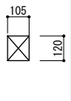
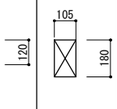
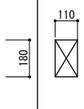
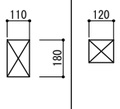
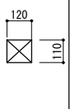
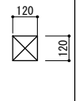
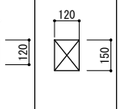
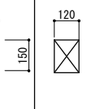
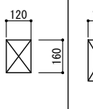
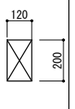
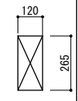
・耐力壁部材リスト

符号	W1	W2
位置	平断面	平断面
断面	 ・2級構造用合板t12 両面貼り ・外周CN50@75、中通りCN50@150 ・間柱:■-40x45@490以内とする ・壁倍率3.3倍	 ・2級構造用合板t12 両面貼り ・外周CN50@75、中通りCN50@150 ・間柱:■-40x45@490以内とする ・壁倍率6.6倍

・鉄骨柱SC1基礎詳細図



・木梁部材リスト

符　号	50×50	90×95	90×105	95×150	105×120	105×180	110×180	120×110	120×120	120×150	120×160	120×200	120×265	160×160	170×260	210×270
位　置	平断面	平断面	平断面	平断面	平断面	平断面	平断面	平断面	平断面	平断面	平断面	平断面	平断面	平断面	平断面	平断面
断　面																
	■-50×50 スギ (無等級,E50)	■-90×95 スギ (無等級,E50)	■-90×105 スギ (無等級,E50)	■-95×150 スギ (無等級,E50)	■-105×120 スギ (無等級,E50)	■-105×180 スギ (無等級,E50)	■-110×180 スギ (無等級,E50)	■-120×110 スギ (無等級,E50)	■-120×120 スギ (無等級,E50)	■-120×150 スギ (無等級,E50)	■-120×160 スギ (無等級,E50)	■-120×200 スギ (無等級,E50)	■-120×265 スギ (無等級,E50)	■-160×160 スギ (無等級,E50)	■-170×260 スギ (無等級,E50)	■-210×270 スギ (無等級,E50)

・スラブ配筋リスト

符号	厚さ	位　置		主筋方向	配力筋方向	備　考
S18	180	全断面	上端筋	D13@200	D13@200	
			下端筋	D13@200	D13@200	
CS18	180	全断面	上端筋	D13@200	D13@200	
			下端筋	D13@200	D13@200	

・耐圧版配筋リスト

符号	厚さ	位　置	主筋方向	配力筋方向	備　考
FS25	250	全断面	D13@200W	D13@200W	捨てコンt=60 砕石t=60以上(砂質土確認)
FS50	500	全断面	D13@200W	D13@200W	捨てコンt=60 砕石t=60以上(砂質土確認)

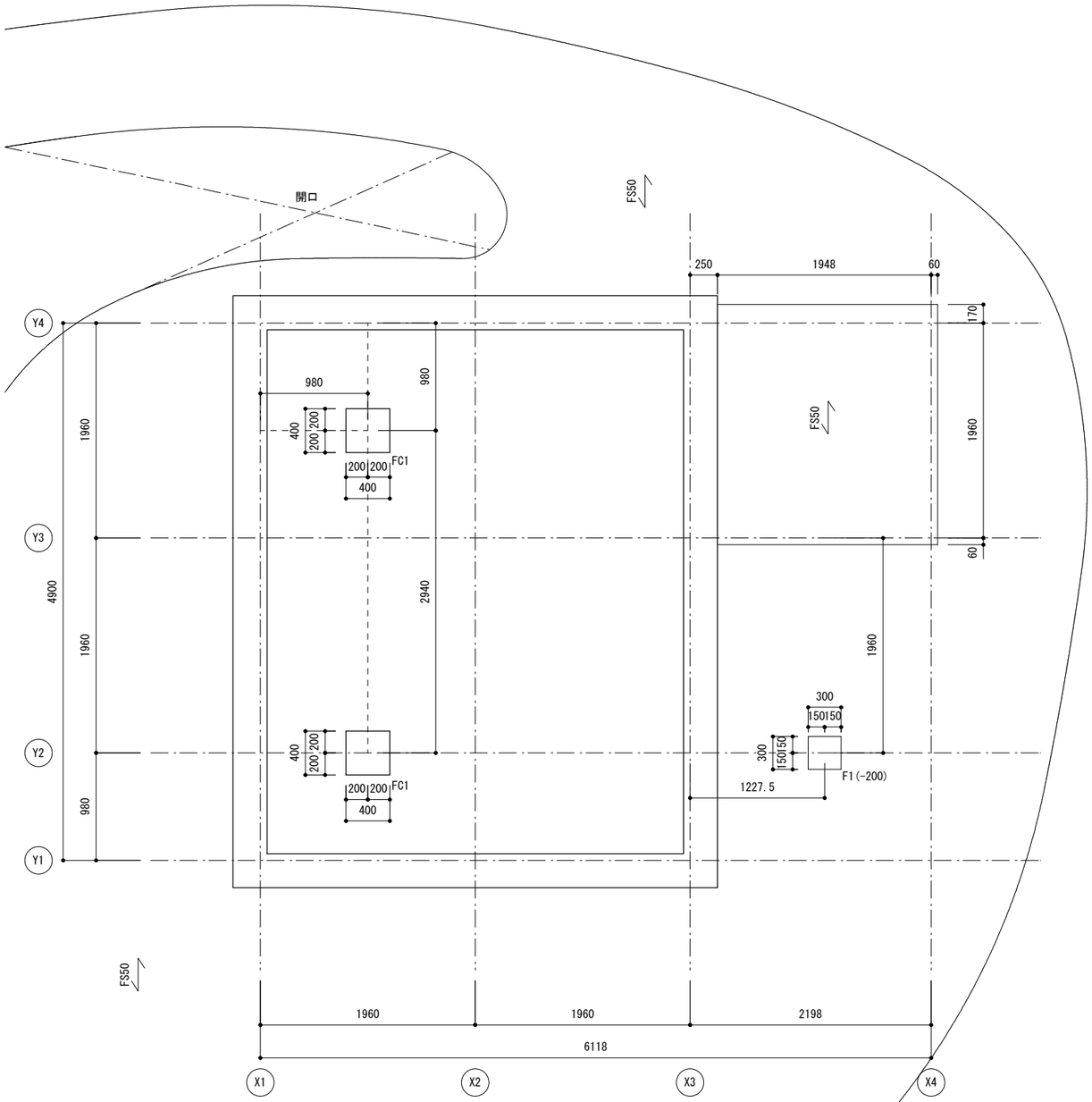
・鉄骨部材リスト

符号	部材断面	鋼材種	備　考
SC1	H-100×100×6×8	SS400	B.PL-16 A.Bolt 2-M16 L=35dフック付き 無収縮モルタルt=20
SG100	H-100×100×6×8	SS400	B.PL-16 A.Bolt 2-M16 L=35dフック付き 無収縮モルタルt=20

共通事項

・Zマーク金物、又は同等品の金物を使用すること。
・金物は柱頭・柱脚とも同じものを使用すること。
・土台と基礎立ち上がりはA.Bolt 1-M12 @1820以内で固定。
・接着剤は床根太きしみ防止用をローラーにて塗布すること。
(コニシのKU928C : F☆☆☆☆同等品)
・耐力壁に使用する構造用合板で屋外に面するものは特類を使用すること。
・土台用のアンカーボルトは、M12埋め込み長さL=240以上とすること
・ホールダウンアンカーボルトは、M16埋め込み長さL=500以上とすること

特記	構造設計 岡田勇佑構造設計事務所 一級建築士　大臣登録　第366064号　岡田勇佑	SUO・Tetor共同企業体 一級建築士　大臣登録　第372122号　周防貴之	工事名称 奈義町アートの森整備工事(第一期) B棟	図面の名称 部材リスト	縮尺 1/30	日付 令和8年11月12日	No. SB08

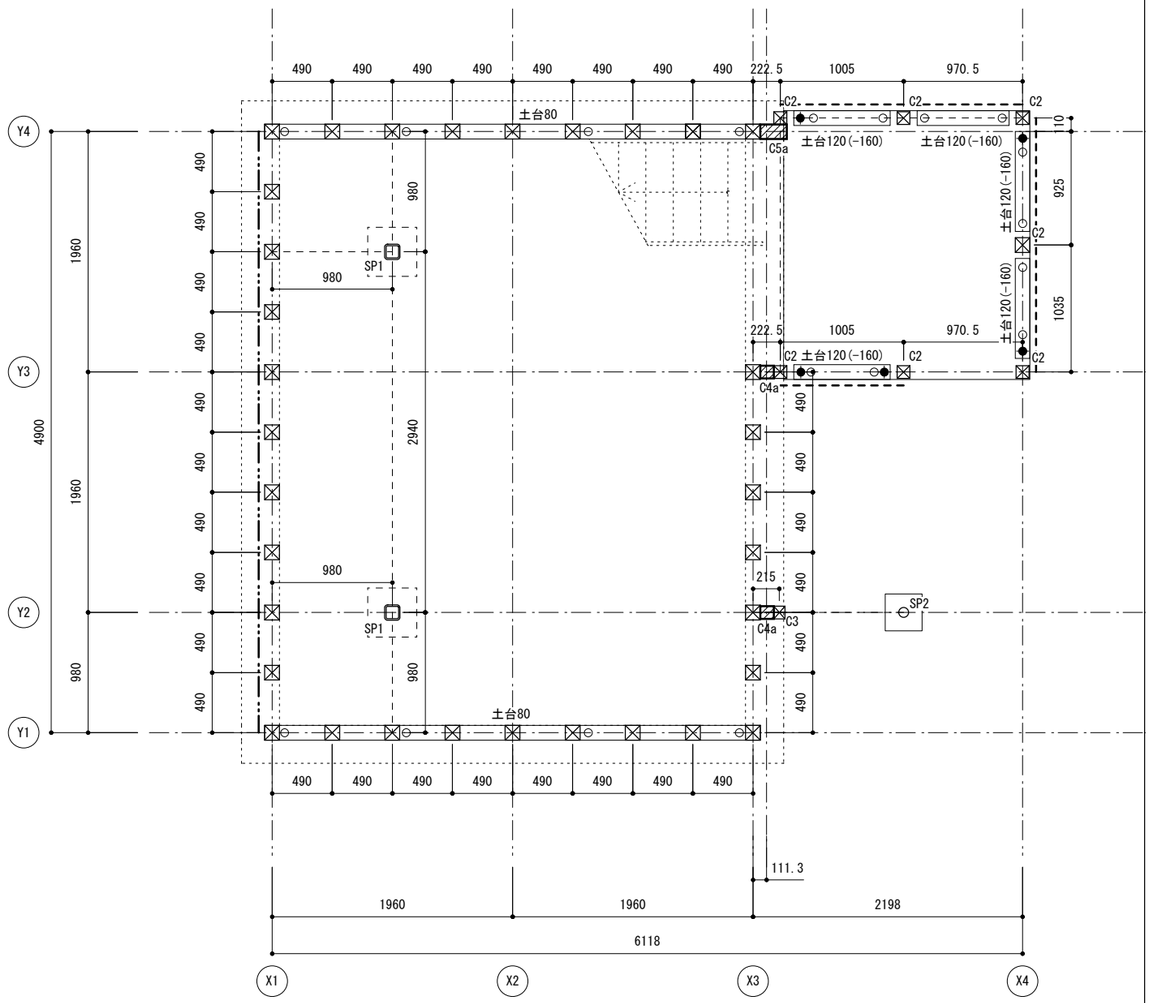


特記外
基準レベル：基礎天端レベル=GL+300
( )内数値は基準レベルとの差を示す

主筋方向を示す

・建物直下の基礎は既存基礎の状況を活用する

基礎伏図 S=1/50



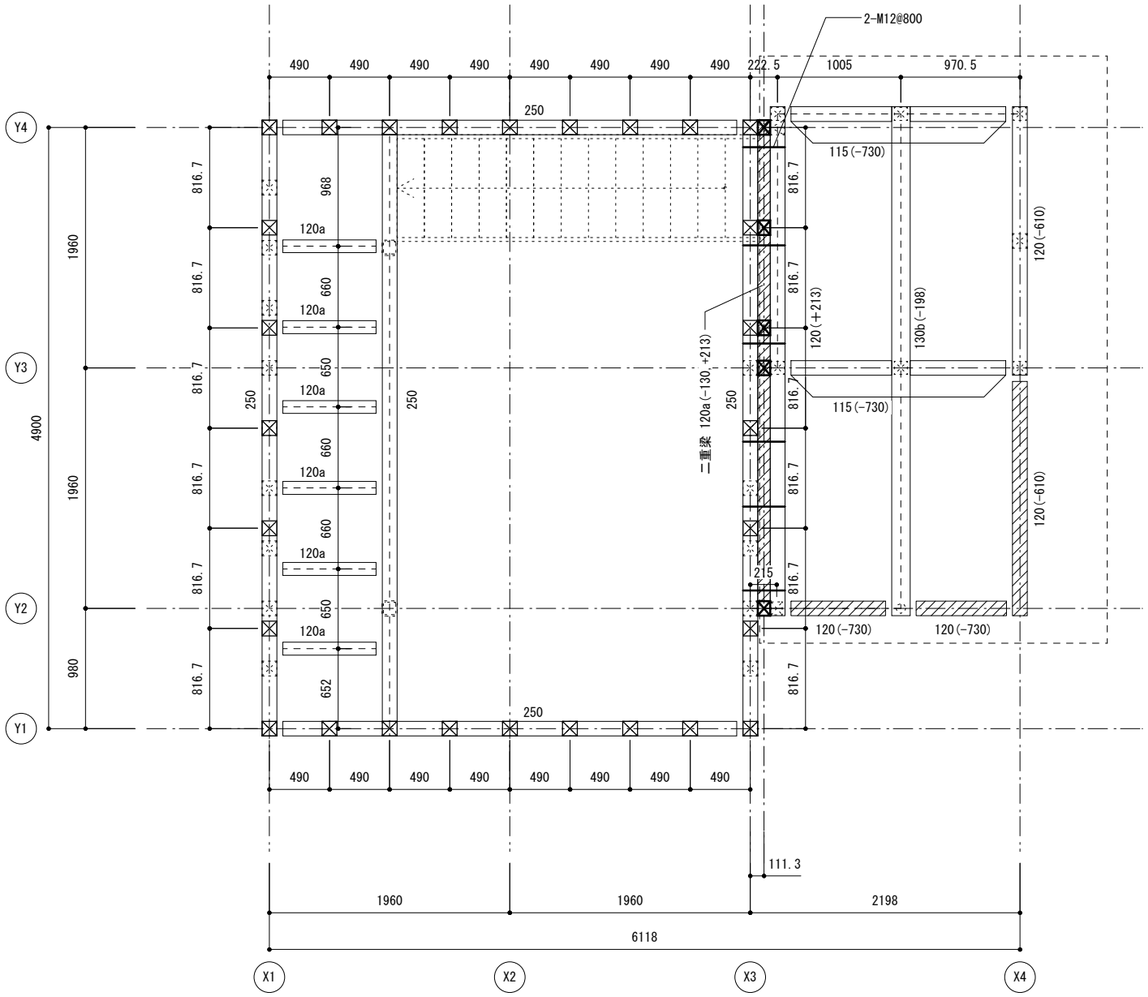
特記外
基準レベル：土台天端レベル=GL+380
( )内数値は基準レベルとの差を示す

木柱C1
耐力壁W1
既存土塗り壁
新設木柱
土台A.Bolt.M12
HD A.Bolt.M16

・柱頭柱脚金物
耐力壁端部柱：ビス止めホールダウンU25(タナカ)
その他柱：スモールコーナーII(タナカ)
上記同等性能品に変更可
・独立柱:SSLOCK柱脚金物(BXカネシン)(立ち上がり部をコンクリートへ埋め込み)
・「既存梁と既存梁」「既存梁と既存柱」は金物で固定する。
基本的にZマーク金物として、使用する金物は設計者に確認すること。

土台伏図 S=1/50

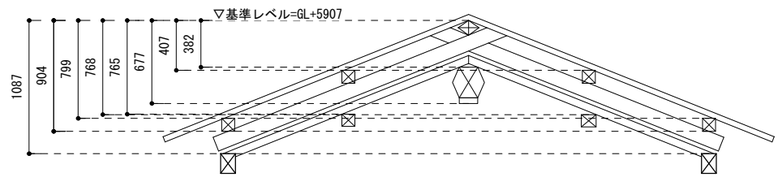
特記	構造設計 岡田勇佑構造設計事務所 一級建築士 大臣登録 第366064号 岡田勇佑	SUO・Tetor共同企業体 一級建築士 大臣登録 第372122号 周防貴之	工事名称 奈義町アートの森整備工事(第一期) C棟	図面の名称 基礎,土台伏図	縮尺 1/50	日付 令和8年11月10日	No. SC01



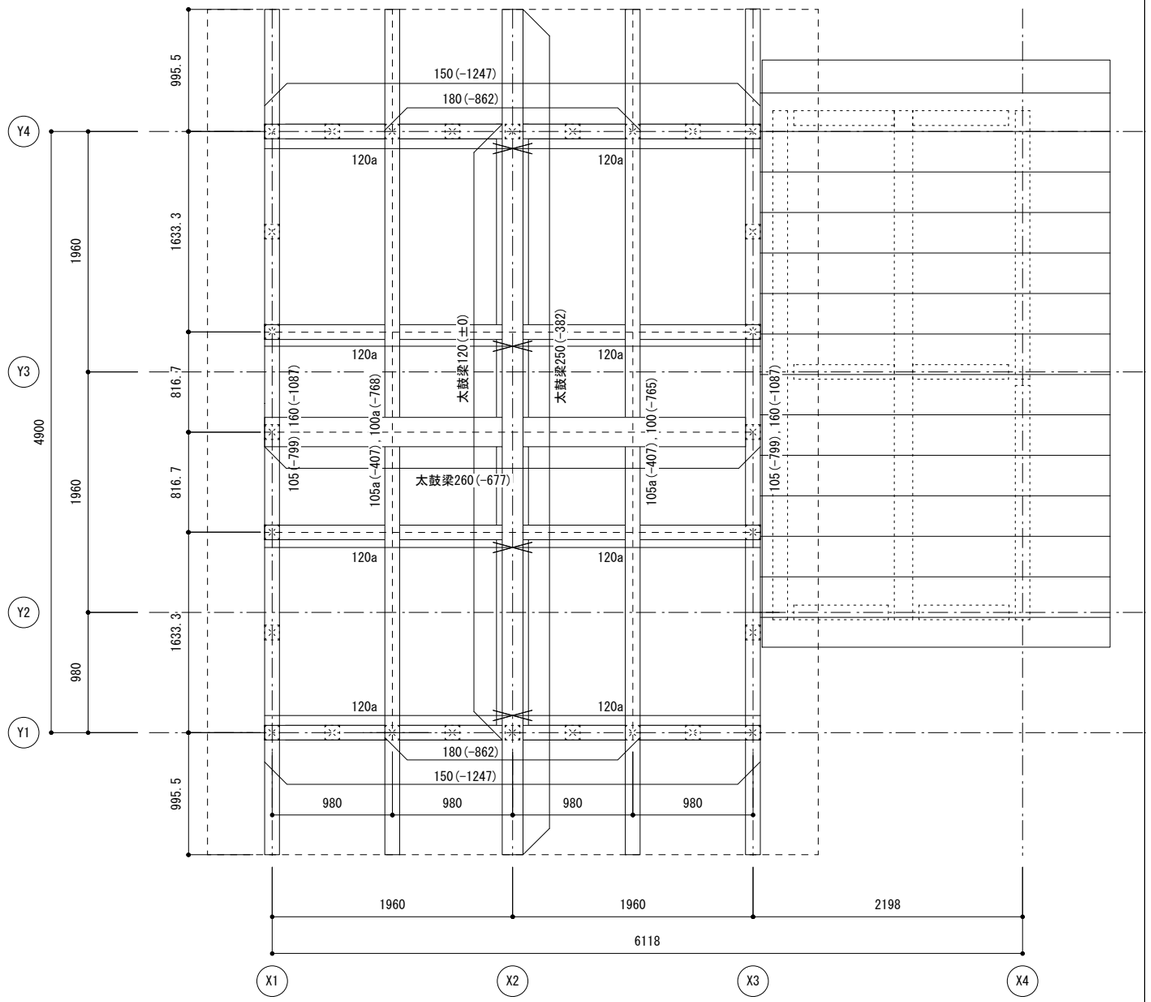
特記外
基準レベル：2階床梁天端レベル=GL+2790
( )内数値は基準レベルとの差を示す

木柱C1 ☒
床版WS1
屋根版WS2
新設木梁 ▨
・「既存梁と既存梁」「既存梁と既存柱」は金物で固定する。
　基本的にZマーク金物として、使用する金物は設計者に確認すること。

2階床伏図 S=1/50



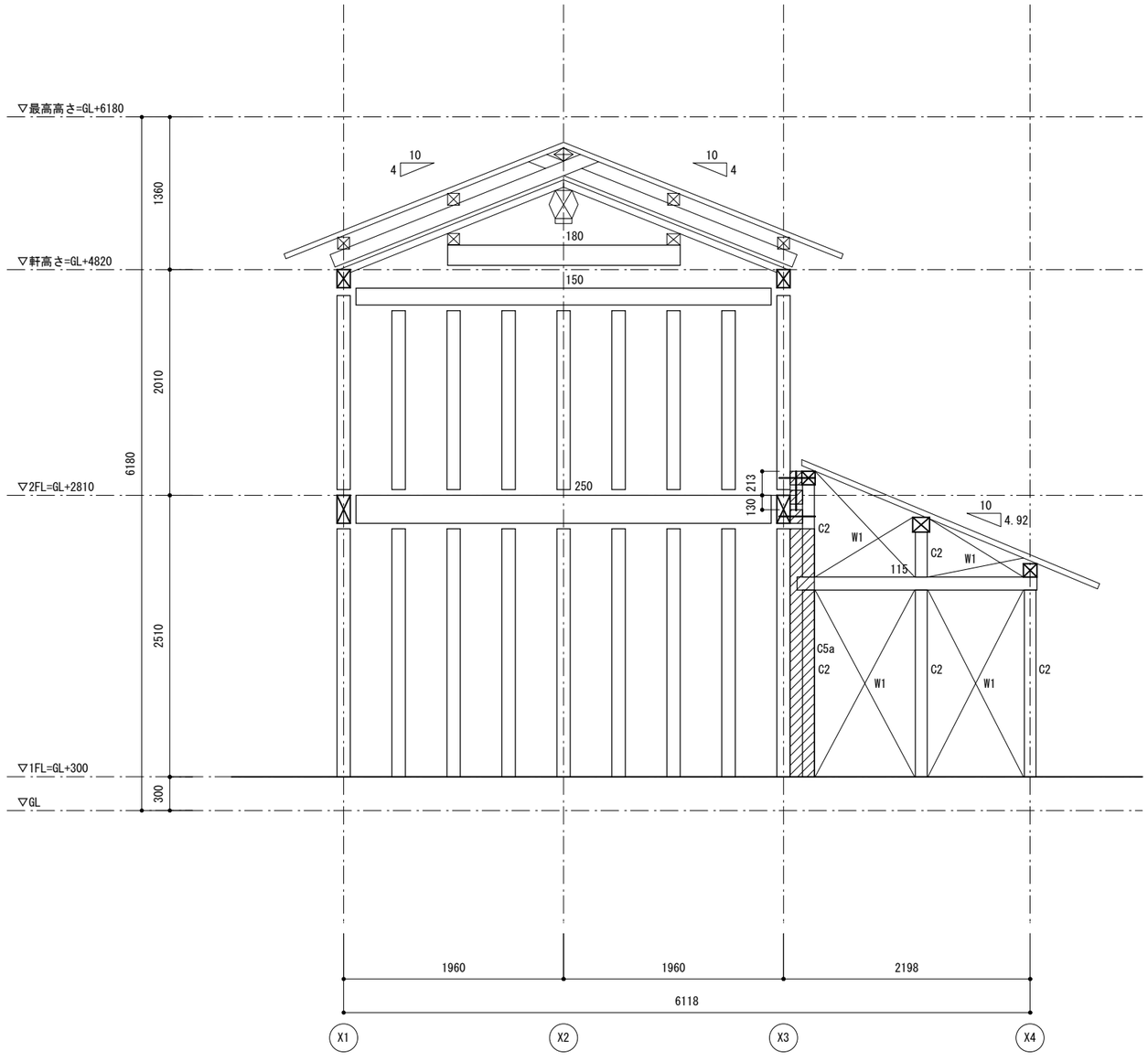
屋根レベル図



特記外
基準レベル：屋根梁天端レベル=GL+5907
( )内数値は基準レベルとの差を示す
・「既存梁と既存梁」「既存梁と既存柱」は金物で固定する。
　基本的にZマーク金物として、使用する金物は設計者に確認すること。

屋根伏図 S=1/50

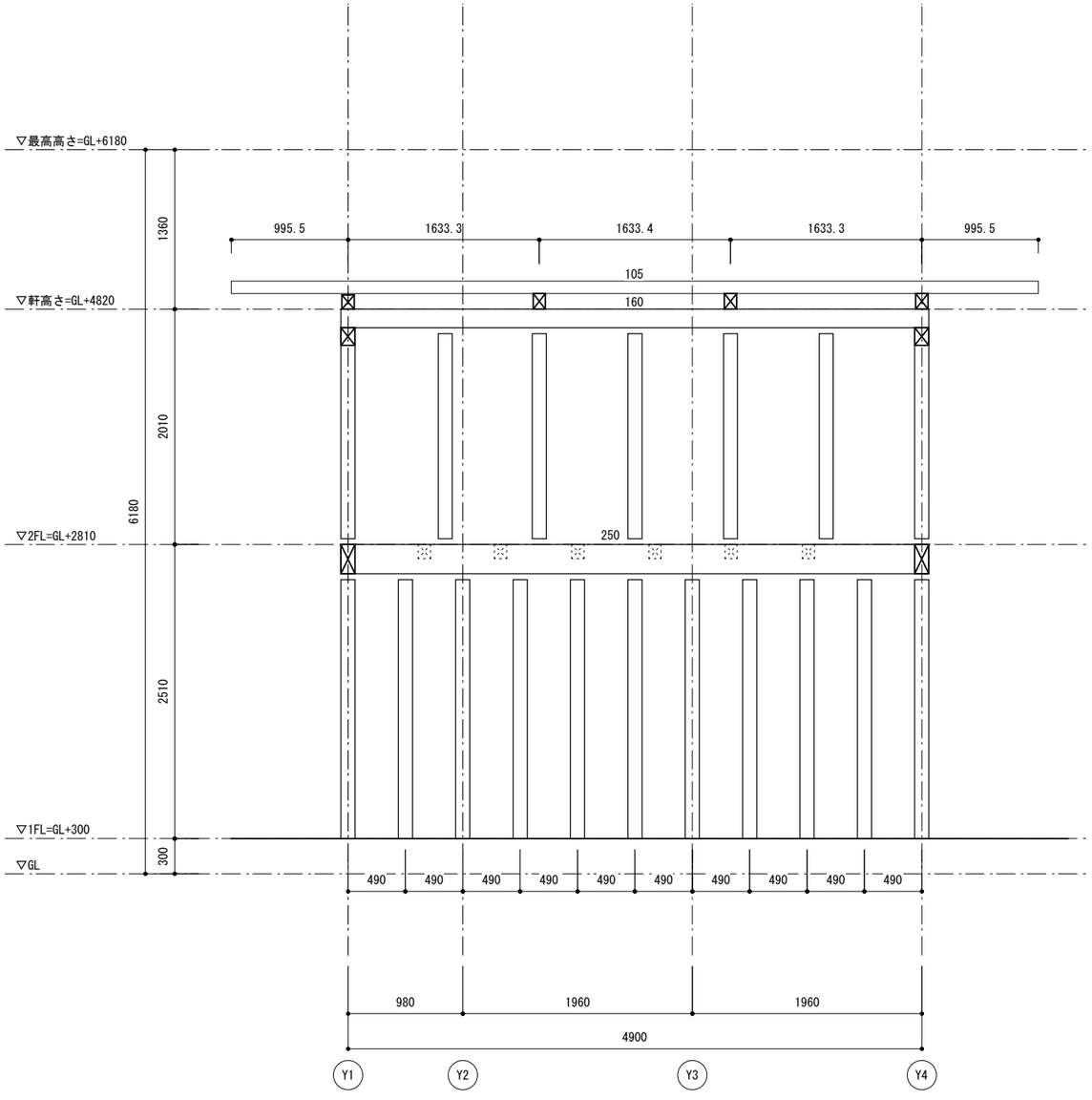
特記	構造設計 岡田勇佑構造設計事務所 一級建築士 大臣登録 第366064号 岡田勇佑	SUO・Tetor共同企業体 一級建築士 大臣登録 第372122号 周防貴之	工事名称 奈義町アートの森整備工事(第一期) C棟	図面の名称 2階床,屋根伏図	縮尺 1/50	日付 令和8年11月10日	No. SC02



Y4通り軸組図

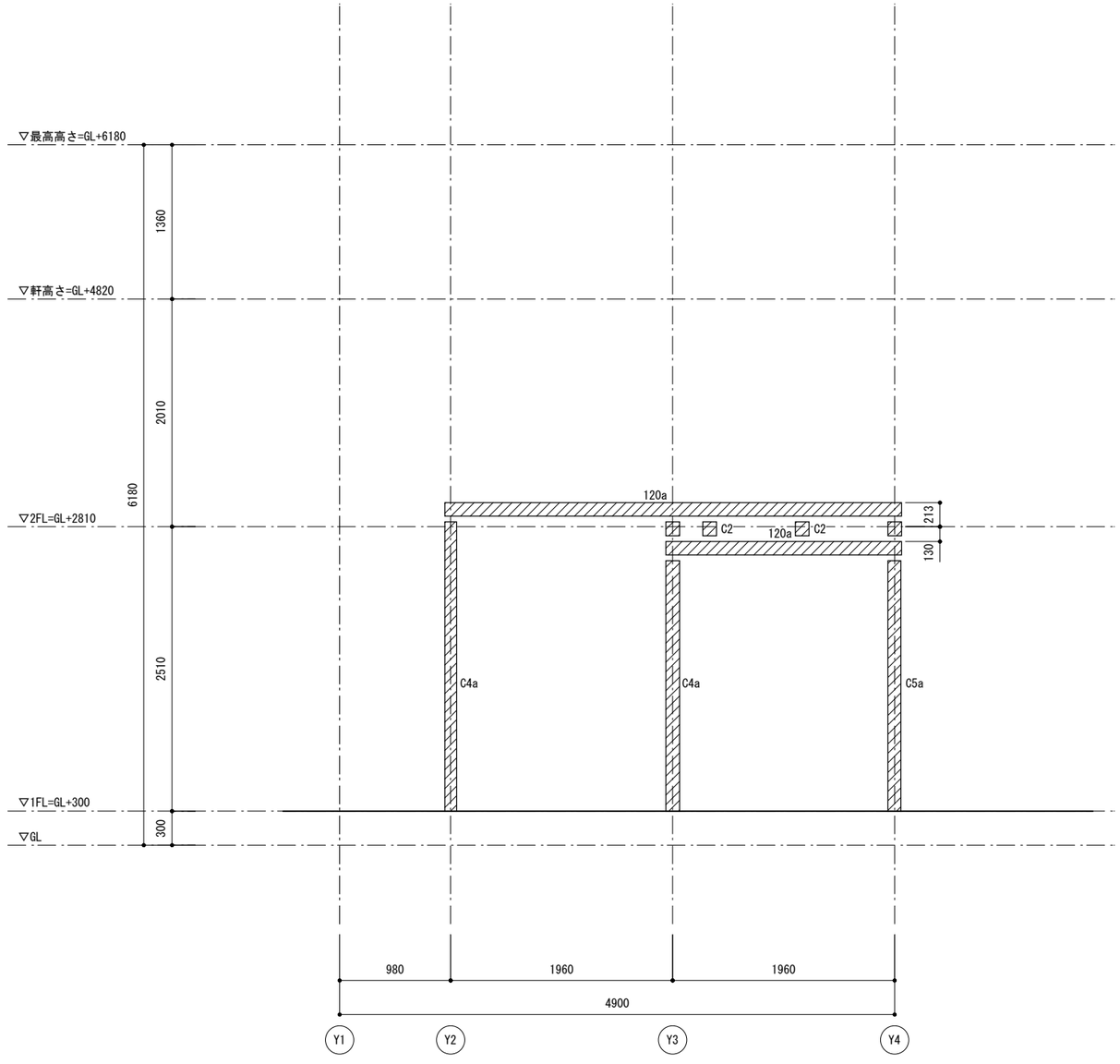
特記外
柱はC1とする
新設材

特記	構造設計 岡田勇佑構造設計事務所 一級建築士 大臣登録 第366064号 岡田勇佑	SUO・Tetor共同企業体 一級建築士 大臣登録 第372122号 周防貴之	工事名称 奈義町アートの森整備工事(第一期) C棟	図面の名称 軸組図(1)	縮尺 1/50	日付 令和8年11月10日	No. SC03



X1通り軸組図

特記外
柱はC1とする



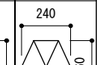
X3+111.3通り軸組図

特記外
柱はC1とする
新設材

特記	構造設計 岡田勇佑構造設計事務所 一級建築士 大臣登録 第366064号 岡田勇佑	SUO・Tetor共同企業体 一級建築士 大臣登録 第372122号 周防貴之	工事名称 奈義町アートの森整備工事(第一期) C棟	図面の名称 軸組図(2)	縮尺 1/50	日付 令和8年11月10日	No. SC04

部材リスト

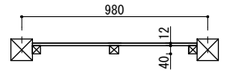
・木梁部材リスト

符　号	土台80	土台120	100	100a	105	105a	115	120	120a	130b	150	160	180	250	太鼓梁120	太鼓梁250	太鼓梁260
位　置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断　面																	
	■-120×80 スギ (無等級,E50)	■-120×120 スギ (無等級,E50)	■-120×100 スギ (無等級,E50)	■-105×100 スギ (無等級,E50)	■-120×105 スギ (無等級,E50)	■-105×105 スギ (無等級,E50)	■-120×115 スギ (無等級,E50)	■-120×120 スギ (無等級,E50)	■-105×120 スギ (無等級,E50)	■-150×130 スギ (無等級,E50)	■-120×150 スギ (無等級,E50)	■-120×160 スギ (無等級,E50)	■-120×180 スギ (無等級,E50)	■-120×250 スギ (無等級,E50)	スギ (無等級,E50)	スギ (無等級,E50)	スギ (無等級,E50)

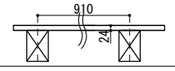
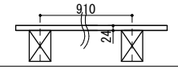
・木柱部材リスト

符　号	C1	C2	C3	C4a	C5a
位　置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断　面					
	■-120×120 スギ (無等級,E50)	■-105×105 スギ (無等級,E50)	■-90×105 スギ (無等級,E50)	■-110×105 スギ (無等級,E50)	■-215×115 スギ (無等級,E50)

・耐力壁部材リスト

符号	W1
位置	全断面
断面	
	・2級構造用合板t=12　片面貼り ・外周CN50@75、中通りCN50@150 ・間柱:■-40x45@490以内とする ・受け材30x40以上で柱・土台・横架材にN75@120以下で釘打ち ・壁倍率3.3倍

・屋根版,床版

符号	床版WS1	屋根版WS2
位置	全断面	全断面
断面		
厚さ	t=24mm	t=24mm
備考	・樹種:針葉樹2級構造用合板 ・CN75@100 川の字打ち付け ・合板と梁上接合部は、構造用接着剤を使用すること。	・樹種:針葉樹2級構造用合板 ・CN75@100 川の字打ち付け ・合板と梁上接合部は、構造用接着剤を使用すること。

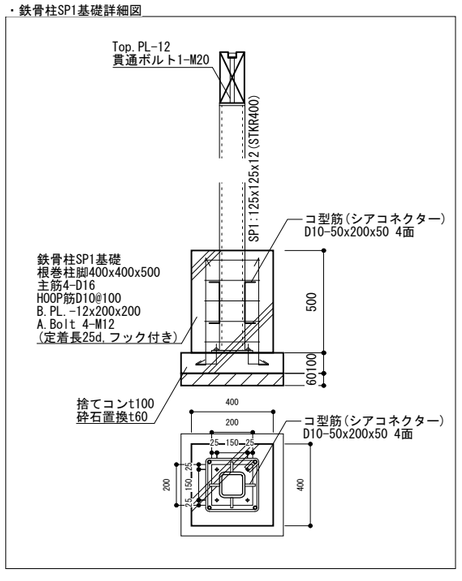
・スラブ配筋リスト

符号	厚さ	位　置		主筋方向	配力筋方向	備　考
FS50	500	全断面	上端筋	D13@200	D13@200	捨てコンt=60
			下端筋	D13@200	D13@200	砕石t=60以上(砂質土確認)

・鉄骨部材リスト

符号	部材断面	鋼材種	備　考
SP1	□-125×125×12	STKR400	新設柱
SP2	○-80.0	STK400	既存柱

・鉄骨柱SP1基礎詳細図



共通事項

・Zマーク金物、又は同等品の金物を使用すること。
・金物は柱頭・柱脚とも同じものを使用すること。
・土台と基礎立ち上がりはA.Bolt 1-M12 @1820以内で固定。
・接着剤は床根太きしみ防止用をローラーにて塗布すること。
　(コニシのKU928C : F☆☆☆☆同等品)
・耐力壁に使用する構造用合板で屋外に面するものは特類を
　使用すること。
・雑壁の受け材は■-105x30以上とする。
・製材はKD材とする。
・土台用のアンカーボルトは、M12埋め込み長さL=240以上とすること
・ホールダウンアンカーボルトは、M16埋め込み長さL=500以上とすること
・横架材相互の接合部の仕様については、双方の部材を腰掛蟻若しくは
大入れ蟻掛けで接合し、羽子板ボルトを用い、一方の部材に対して
径12mmのボルト締め、他方の部材に対して厚さ4.5mm、40mm角の角座金を介してナット締めしたもの。または同等性能の
仕様とする。

特記	構造設計 岡田勇佑構造設計事務所 一級建築士　大臣登録　第366064号　岡田勇佑	SUO・Tetor共同企業体 一級建築士　大臣登録　第372122号　周防貴之	工事名称 奈義町アートの森整備工事(第一期) C棟	図面の名称 部材リスト	縮尺 1/30	日付 令和8年11月10日	No. SC05